

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層別	深度 (m)	地層位置	地層名	地層記号	細区分		RQD	割れ目長さ (cm)	割れ目形状	割れ目方向	割れ目密度	割れ目性状	割れ目注記	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目長さ	割れ目形状								
61	60.54													98 59.85~60.99m: CL 60.54m以浅は割れ目ぞいに風化が進み、硬さ「E」も含んでいる。 60.54m以深は硬質となり硬さ「C」が主体である。 前者では、割れ目ぞいにマンガン鉱染を伴う。
61	61.38													99 60.99~61.38m: CH 堅硬。割れ目に挟在物はさまない。 61.38~63.61m: CM 上部部の61.38~61.42m間と62.82m以深は、割れ目ぞいに風化が進み砂状化する部分があるが、その他区間では割れ目に挟在物は殆んど分布しない。
61	62.82													99 62.53~62.57m 互いに直交する割れ目交差部で一部細片化するが砂状化や粘土化による劣化は伴わない。 62.82~63.61m 岩片は硬いが(硬さ「B」)、割れ目ぞいに幅2~10m/m程度砂状~細かく片状化する。 粘土化部や粘土脈ははさまない。
61	63.61													100 63.61~64.00m: D 割れ目ぞいの風化が著しく進み砂状化する。φ10~60m/m硬さ「D」「C」岩片が残留し、「砂礫状」呈する。 一部で割れ目が残留している。 63.90~63.94m間に60° 幅1~3m/m石英脈が2条分布。
61	64.00													101 64.00~64.33m: CL 50~60° と70° 割れ目がほぼ直交し、交差部ではφ10m/m程度に細かく岩片化する部分もある。
61	64.33													102 64.33~66.07m: CM 割れ目の多くは割れ目ぞいに薄く砂状化する。

記事内容
98 59.85~60.99m: CL 60.54m以浅は割れ目ぞいに風化が進み、硬さ「E」も含んでいる。 60.54m以深は硬質となり硬さ「C」が主体である。 前者では、割れ目ぞいにマンガン鉱染を伴う。
99 60.99~61.38m: CH 堅硬。割れ目に挟在物はさまない。 61.38~63.61m: CM 上部部の61.38~61.42m間と62.82m以深は、割れ目ぞいに風化が進み砂状化する部分があるが、その他区間では割れ目に挟在物は殆んど分布しない。
99 62.53~62.57m 互いに直交する割れ目交差部で一部細片化するが砂状化や粘土化による劣化は伴わない。 62.82~63.61m 岩片は硬いが(硬さ「B」)、割れ目ぞいに幅2~10m/m程度砂状~細かく片状化する。 粘土化部や粘土脈ははさまない。
100 63.61~64.00m: D 割れ目ぞいの風化が著しく進み砂状化する。φ10~60m/m硬さ「D」「C」岩片が残留し、「砂礫状」呈する。 一部で割れ目が残留している。 63.90~63.94m間に60° 幅1~3m/m石英脈が2条分布。
101 64.00~64.33m: CL 50~60° と70° 割れ目がほぼ直交し、交差部ではφ10m/m程度に細かく岩片化する部分もある。
102 64.33~66.07m: CM 割れ目の多くは割れ目ぞいに薄く砂状化する。

標尺	高度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長(cm)	記事
50					CL	100	1	0				●63.17~63.22m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・灰褐色の砂遣じり粘土状~明褐色の粘土。泥じり塊状を呈する。 ・灰褐色の砂遣じり粘土。累計厚3mm ・走向・傾斜はN77° E64° Wである。 ・傾斜は29° である。 ・上盤境界の傾斜は29°、下盤境界の傾斜は27° である。 ●63.61~63.65m ・破砕部である。(D-I破砕帯) ・正断層センスである。 ・灰褐色~灰白色の粘土状~にぶい褐色の粘土。泥じり塊状を呈する。 ・灰褐色~灰白色の粘土。7mm ・走向・傾斜はN26° E80° Wである。 ・傾斜は28° である。 ・上盤境界の傾斜は22°、下盤境界の傾斜は28° である。
60					CL	100	5	0			99	●60.99~63.61m ・硬質であるが、割れ目が多い。
					CL	100	5	0			100	●63.61~64.00m ・砂礫状を呈する。
					CL	100	2	0			102	●64.33~66.07m ・硬質であるが、割れ目が多い。
					CM	100	13	13				●67.30~67.33m ・砂礫状を呈する。 ●69.70~69.73m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・にぶい黄褐色の粘土状~灰黄色の粘土。泥じり塊状を呈する。 ・にぶい黄褐色の粘土。累計厚1mm ・走向・傾斜はN26° E82° W ●69.70~69.73m

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
98	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
99	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・“コアの硬さ”欄と“コアの形状”欄に基づき、硬質であるが、割れ目が多いと記載。 ・割れ目の挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化や細片化がみられるが、いずれも連続性に乏しいことから削除。 ・62.53~62.57mで細片化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
100	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・砂礫状部を構成する岩片の硬軟、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
101	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いに岩片化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
102	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化が見られるが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・“コアの硬さ”欄と“コアの形状”欄に基づき、硬質であるが、割れ目が多いと記載。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 番号	地質 記号	細区分	割れ目 形状	割れ目 長さ	風化 程度	RQD	最大径 (mm)	岩級区分	記事区分	基盤岩コア観察カード	
												記事・破砕性状・詳細スケッチ等	記事区分
70	70.00									106		●69.70～69.73m: 破砕帯(主せん断面69.70m)	
										107		69.70m: Hc-1 55°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟弱粘土(ガウジ)、色調はにぶい黄橙(10YR5/3)、厚さ1m/m。	

												108	69.70～69.73m: Hj 上端55°で、下端57°でいずれも直線的に連続。φ3～10m/m硬さE(粘土化)、Dの岩片で岩片間の一部は粘土化する。全体として「粘土混じり岩片状」呈する。色調は灰黄色(2.7Y7/2)、厚さ1m/m
												109	69.73～74.10m: CL 硬さ「D」と硬さ「C」の区間が交互に出現する。硬さ「D」では割れ目に砂などの挟入物が分布するが、硬さ「C」区間では挟入物は殆んど分布しない。
												110	70.06～70.09m 45° 割れ目ぞいに風化で砂状化する。70.43～71.27mの硬さ「C」のうち、70.49～70.59mではφ5m/mの白濁化した長石が多い。70.59m以浅では少ない。
												111	71.27～71.60m 45～60° 幅1m/m以下の軟弱な灰白色粘土が脈状に分布する。その一部は風化で褐色化する。
												112	71.37～71.50m φ10m/m前後の大型の石英斑晶が点在。岩片も硬さ「C」と周囲より硬質化している。
												113	71.88m 0～10° 幅1m/m石英脈が密着して連続。

記事内容
106 ●69.70～69.73m: 破砕帯(主せん断面69.70m)
107 69.70m: Hc-1 55°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟弱粘土(ガウジ)、色調はにぶい黄橙(10YR5/3)、厚さ1m/m。
108 69.70～69.73m: Hj 上端55°で、下端57°でいずれも直線的に連続。φ3～10m/m硬さE(粘土化)、Dの岩片で岩片間の一部は粘土化する。全体として「粘土混じり岩片状」呈する。色調は灰黄色(2.7Y7/2)、厚さ1m/m
109 69.73～74.10m: CL 硬さ「D」と硬さ「C」の区間が交互に出現する。硬さ「D」では割れ目に砂などの挟入物が分布するが、硬さ「C」区間では挟入物は殆んど分布しない。
110 70.06～70.09m 45° 割れ目ぞいに風化で砂状化する。70.43～71.27mの硬さ「C」のうち、70.49～70.59mではφ5m/mの白濁化した長石が多い。70.59m以浅では少ない。
111 71.27～71.60m 45～60° 幅1m/m以下の軟弱な灰白色粘土が脈状に分布する。その一部は風化で褐色化する。
112 71.37～71.50m φ10m/m前後の大型の石英斑晶が点在。岩片も硬さ「C」と周囲より硬質化している。
113 71.88m 0～10° 幅1m/m石英脈が密着して連続。

標尺	深度	柱状	岩級	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長	記事
m	m	図	区分	区分	区分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
60			CL'			100	8	0				64.33～66.07m 硬質であるが、割れ目が多い。 67.80～67.83m 砂状性を呈する。
			CM'			100	10	10				●69.70～69.73m 破砕部である。 右ずれセンスである。 にぶい黄褐色の粘土状～灰黄色の粘土混じり脈状を呈する。 にぶい黄褐色粘土・累計厚1mm 走向・傾斜はN25°E27°W 傾斜は55°である。 上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は57°である。
			CL			100	10	10				73.35～73.38m 幅25～40mmで纏まった砂状を呈する。 ●74.36～74.50m 破砕部である。カタクレーサイトからなる。
			CL			100	9	0				灰褐色の粘土状～にぶい黄褐色の硬質粘土状を呈する。 灰褐色粘土・累計厚7mm

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
106～108	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
109	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 一部割れ目扱いに砂状化するが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 割れ目の挟入物の有無については、補足的なものであるため削除。
110	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目扱いに砂状化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
111	<ul style="list-style-type: none"> 色調については、補足的なものであるため削除。 一部に粘土を挟入するが、系統的でなく、連続性や直線性に乏しいことから削除。
112	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 局所的に挟まれる硬質な岩片の記載については、補足的なものであるため削除。
113	<ul style="list-style-type: none"> 鉱物脈については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

標尺	深度	地層	地質	地質	細区分		備考	記事
					細区分	備考		
0.5	75.50							121
0.5	75.75							122
0.5	76.00							123
0.5	76.25							124
0.5	76.50							125

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
74.50～75.57m: D 74.50～75.00mは礫状コアで採取され、割れ目状況など不明 75.00～75.57m岩組織は残留しているが、多くの割れ目は消滅している。
●75.57～76.00m: 破砕帯(主せん断面75.73m)
75.57～75.71m: Hj 上端は不明瞭ながら25°で、下端68°で波打って連続。φ5～20m/m岩片からなり、岩片間は粘土化～砂状化する「粘土混じり岩片状」呈する。 色調は灰黄褐色(10YR6/2)、厚さ90～120m/m
75.71～75.73m: Hc-2 68°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1～3m/m石英粒とφ3m/m岩片を5～10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(5YR6/2)、厚さ10～12m/m
75.73～75.93m: Hb 上端68°で直線的、下端64°で波打って連続。φ2～4m/m石英粒、φ5～10m/m岩片を10～15%含む半固結状の「礫質粘土状」呈する。石英粒は主せん断面方向に配列している。 色調は明褐色(5YR7/2)～灰褐色(5YR5/2)、厚さ55m/m
75.93～76.00m: Hj 上端は64°で波打って、下端は不明瞭(30°?)に連続。 φ5～10m/m岩片と岩片間の粘土からなり「粘土混じり～粘土質岩片状」呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)、厚さ60m/m以上。

申請書用柱状図

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	最大コア長	記事
m	m	図	区分	調	区分	(%)	(cm)	(%)	D	R・Q・D	(%)
70											
											●74.36～74.50m 破砕部である。カタクレサイトからなる。 ・灰褐色の粘土状～にぶい黄褐色の礫質粘土状を呈する。 ・灰褐色粘土：累計厚7mm ・走向・傾斜はN15° E87° W ・傾斜は20°である。 ・上盤境界の傾斜は27°、下盤境界の傾斜は30°である。
											●75.57～76.00m 破砕部である。 ・灰褐色の礫混じり粘土～明褐色～灰褐色の礫質粘土状～灰黄褐色～明褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰褐色礫混じり粘土：累計厚12mm ・傾斜は65°である。 ・上盤境界の傾斜は25°である。
											●76.72～78.87m 破砕部である。 ・わずかにセメントである。 ・灰褐色の粘土状～にぶい黄褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰褐色粘土：累計厚2mm ・走向・傾斜はN17° E71° E ・傾斜は0°である。 ・上盤境界の傾斜は31°、下盤境界の傾斜は60°である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
121	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・一部で礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
122～125	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) ・φ1～3mm石英粒とφ3mm岩片を5～10%含むとの記載に基づき、礫混じり粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書で記載しないこととしているため削除。

H27-B-1

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	標準貫入試験 値	地質 記号	地質 説明	細区分				RQD	最大コア長 (cm)	記事番号	記事内容
					崩れ目	崩れ目	崩れ目	崩れ目				
0.5	78.87									129	記事内容	
0.5	79.02									130	記事内容	
0.5	79.27									131	記事内容	
0.5	79.69									132	記事内容	
0.5	79.96									133	記事内容	
0.5	80.02									134	記事内容	
0.5	80.30									135	記事内容	
0.5	80.66									136	記事内容	
0.5	80.82									137	記事内容	

記事番号	記事内容
129	78.87～82.51m: CL 78.87～79.27m 硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。 79.02m 55° 厚さ3m/m褐色砂～φ2m/m細片化岩片はさむ 79.27～80.66m 硬さ「C」主体 上端側の79.27～79.59mは硬さ「B」を堅硬 79.69～79.95mは褐色化するが珪化のため硬さ「C」と硬質 79.96～80.23m 45° 前後の割れ目が多い。 これらの割れ目には褐色粘土やマンガン厚さ0.5～3 m/m ではさんでいる。
130	80.30～80.40m 割れ目ぞいに砂状化が進む。 80.30～80.35mはコアチューブ引き上げ時に発生した角礫状コア 80.66～81.87m 硬さ「D」中に硬さ「C」のφ2～3cm岩片が断片的に分布 80° 前後の高角度割れ目が多い。
131	81.17m 55° 割れ目に厚さ10～15m/m で砂と褐色粘土はさむ。 挟在物中と割れ目周辺にφ0.5 m/m 以下の微細な黄鉄鉱伴う。
132	81.82～81.87m間は風化で締った砂礫状呈する。 81.87～82.51m 割れ目ぞいに砂状化する部分も含まれる。
133	82.51～82.62m: D 風化で砂状化する。φ0.5～1cmのGp岩片が礫状に分布する
134	82.62～82.94: CL 割れ目沿いに砂状化進む。一部で幅1～2m/m白色粘土脈はさむ 82.94～84.09: CM ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる 割れ目の挟雑物は少ない。 83.30～83.47m 長石の一部が白濁化する。
135	84.07～84.09m 上端45°、下端65° 割れ目で囲まれ、砂状化～細片状化する。 厚さ1～10m/mで厚さ3 m/mレンズ状の淡黄色軟質粘土とマンガン鉱染伴う。
136	84.09～84.92m: CH 60～80° の高角度の「ゆ着割れ目」を伴うが、密着度は高くハンマーの打撃でも分離しない。 84.50m 36° 割れ目の一部に厚さ2～3m/mのマンガンを伴う。
137	84.82～84.92m 割れ目交差部で一部片状コア、岩片自身は堅硬で劣化や挟在物は伴わない。 84.92～85.38m: CL

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	記事
m	m	m	図	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
129, 130	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、「岩級区分」欄に示しているため削除。 長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 変色、割れ目の傾斜、マンガン、割れ目沿いの鉱物晶出については、補足的なものであるため削除。 80.30～80.40mで割れ目沿いに砂状化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
131～137	記載漏れのため比較対象無し。※2

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深さ (m)	深度 (m)	境界 番号 位置	地層 名	細区分										備考		
				割れ目 の有無	割れ目 の長さ	割れ目 の方向	割れ目 の形状	割れ目 の粗さ	割れ目 の密度	割れ目 の長さ	割れ目 の方向	割れ目 の形状	割れ目 の粗さ		割れ目 の密度	
0.00	0.00														138	下位破砕帯の主せん断面と同方向の50~60°割れ目やゆるぎ割れ目が多い。
0.05	0.05														139	85.01m 幅1m/m以下 22°石英脈が50°割れ目と斜交して連続。
0.10	0.10														140	85.38~85.41m破砕帯(主せん断面85.41m) 85.41m:Hc-1 47°で上下端とも直線的に連続、φ1m/m石英粒をこくわずか(5%以下)含む 軟弱な粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR5/2)厚さ2m/m
0.15	0.15														141	85.41~85.92m:CL 上位の破砕帯の主せん断面と同方向の40~60°割れ目主体、砂や粘土をはさむ。
0.20	0.20														142	85.92~86.43m:D 割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ10~30m/m硬さ「C」岩片を多量に混えた砂礫状を呈する。
0.25	0.25														143	86.43~86.86m:CM 86.86~87.20m:CL 50~60°割れ目ぞいを主体に軟化が進む。 断片的に硬さ「C」岩片も礫状に残留している。
0.30	0.30														144	87.20~87.51m:D 風化で締った礫質砂状を呈する。 幅1~3m/mの橙色粘土も脈状に分布する。
0.35	0.35														145	87.51~93.53m:CL 割れ目ぞいに風化が進んでいる。 全体に硬さ「C」の岩片が主体である。 割れ目には風化起源の締った砂、粘土脈、マンガンをはさむことが多い。
0.40	0.40														146	88.51~88.69m 40~50°の割れ目は1~2cm間隔で平行に分布。それと60°斜交~直交する割れ目や幅1m/m石英脈も分布。 89.25~89.56m 上下に比べやや割れ目が少なくなる。 89.56~89.86m 割れ目ぞいに風化が進み全体脆くなる。(硬さD)

記事内容
138 下位破砕帯の主せん断面と同方向の50~60°割れ目やゆるぎ割れ目が多い。
139 85.01m 幅1m/m以下 22°石英脈が50°割れ目と斜交して連続。
140 85.38~85.41m破砕帯(主せん断面85.41m) 85.41m:Hc-1 47°で上下端とも直線的に連続、φ1m/m石英粒をこくわずか(5%以下)含む 軟弱な粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR5/2)厚さ2m/m
141 85.41~85.92m:CL 上位の破砕帯の主せん断面と同方向の40~60°割れ目主体、砂や粘土をはさむ。
142 85.92~86.43m:D 割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ10~30m/m硬さ「C」岩片を多量に混えた砂礫状を呈する。
143 86.43~86.86m:CM 86.86~87.20m:CL 50~60°割れ目ぞいを主体に軟化が進む。 断片的に硬さ「C」岩片も礫状に残留している。
144 87.20~87.51m:D 風化で締った礫質砂状を呈する。 幅1~3m/mの橙色粘土も脈状に分布する。
145 87.51~93.53m:CL 割れ目ぞいに風化が進んでいる。 全体に硬さ「C」の岩片が主体である。 割れ目には風化起源の締った砂、粘土脈、マンガンをはさむことが多い。
146 88.51~88.69m 40~50°の割れ目は1~2cm間隔で平行に分布。それと60°斜交~直交する割れ目や幅1m/m石英脈も分布。 89.25~89.56m 上下に比べやや割れ目が少なくなる。 89.56~89.86m 割れ目ぞいに風化が進み全体脆くなる。(硬さD)

標尺	標高	深さ	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	コア採取率	最大コア長	記事
m	m	m	図	分	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
									0.20	40	60	80	100	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
138~146	・記載漏れのため比較対象無し。※2

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (0.0)	深度 (m)	境界 番号位置	地質 記号	細区分				最大割れ目径 (mm)	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				割れ目性状	風化	変質	その他			
									157	100.00~100.51m ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目が多く細片化し易い。
									158	100.51~100.72m: CL 風化で一部割れ目ぞいに砂状化しマンガン鉱染も受ける。
									159	100.72~102.35m: CM 割れ目には挟雑物は殆んど認められない。一部でゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。
									160	101.57~101.58mと102.00~102.05m間は割れ目ぞいに片状~礫状に砕けているが、粘土や軟化部は分布しない。
									159	101.57~101.58mと102.00~102.05m間の暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。
									161	102.05~102.35m間では高角度で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。
									162	102.35~107.40m: CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。部分的に割れ目ぞいに薄く砂状化したり粘土脈やマンガンをはさむが全体では挟在物は殆んど含まない。
									163	103.52~103.54m間、割れ目ぞいに薄く砂状化する。

記事内容
157 100.00~100.51m ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目が多く細片化し易い。
158 100.51~100.72m: CL 風化で一部割れ目ぞいに砂状化しマンガン鉱染も受ける。
159 100.72~102.35m: CM 割れ目には挟雑物は殆んど認められない。一部でゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。
160 101.57~101.58mと102.00~102.05m間は割れ目ぞいに片状~礫状に砕けているが、粘土や軟化部は分布しない。
159 101.57~101.58mと102.00~102.05m間の暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。
161 102.05~102.35m間では高角度で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。
162 102.35~107.40m: CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。部分的に割れ目ぞいに薄く砂状化したり粘土脈やマンガンをはさむが全体では挟在物は殆んど含まない。
163 103.52~103.54m間、割れ目ぞいに薄く砂状化する。

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	コア採取率	最大コア長	記事
m	m	m	図	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
157~163	・記載漏れのため比較対象無し。※2

H27-B-1

コア観察カード (H27年8月)

標尺 1.05 (m)	深 度 (m)	標 高 標 高 標 高	地 質 記 号	地 質 記 号	細区分					RQD	岩 質 記 号	破 砕 度 記 号	基 礎 岩 コ ア 観 察 カ ー ド 記 事 ・ 破 砕 性 状 ・ 詳 細 ス ケ チ 等
					TM3	TM4	TM5	TM6	TM7				
0.5	105.23											164	105.23~105.25m 65° 割れ目は幅1~3m/mの緑色粘土脈はさむ。破碎は伴わない。
0.5	106.33											165	106.33m 60° 割れ目ぞい幅5m/mが細片化する。粘土は伴わない。
0.5	107.40											166	107.40~107.83m: CM
0.5	107.52											167	107.52~107.55m 各々40°、53° 割れ目に囲まれ細岩片化~砂状化する。粘土は伴わない。
0.5	107.83											168	107.83~108.24m: CL 風化で割れ目ぞいに軟化が進む。 108.20m 50° 割れ目と周辺の割れ目はマンガン鉱染を受ける。
0.5	108.24											169	108.24~109.98m: CM 硬質であるがゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が多くハンマーの強打で細片化する。 割れ目には挟在物は殆んど分布しない。
0.5	109.00											170	109.00~109.14mと109.41~109.60m間は割れ目が密集し、長10~30m/m主体の硬質岩片化している。

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
164 105.23~105.25m 65° 割れ目は幅1~3m/mの緑色粘土脈はさむ。破碎は伴わない。
165 106.33m 60° 割れ目ぞい幅5m/mが細片化する。粘土は伴わない。
166 107.40~107.83m: CM
167 107.52~107.55m 各々40°、53° 割れ目に囲まれ細岩片化~砂状化する。粘土は伴わない。
168 107.83~108.24m: CL 風化で割れ目ぞいに軟化が進む。 108.20m 50° 割れ目と周辺の割れ目はマンガン鉱染を受ける。
169 108.24~109.98m: CM 硬質であるがゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が多くハンマーの強打で細片化する。 割れ目には挟在物は殆んど分布しない。
170 109.00~109.14mと109.41~109.60m間は割れ目が密集し、長10~30m/m主体の硬質岩片化している。

申請書用柱状図

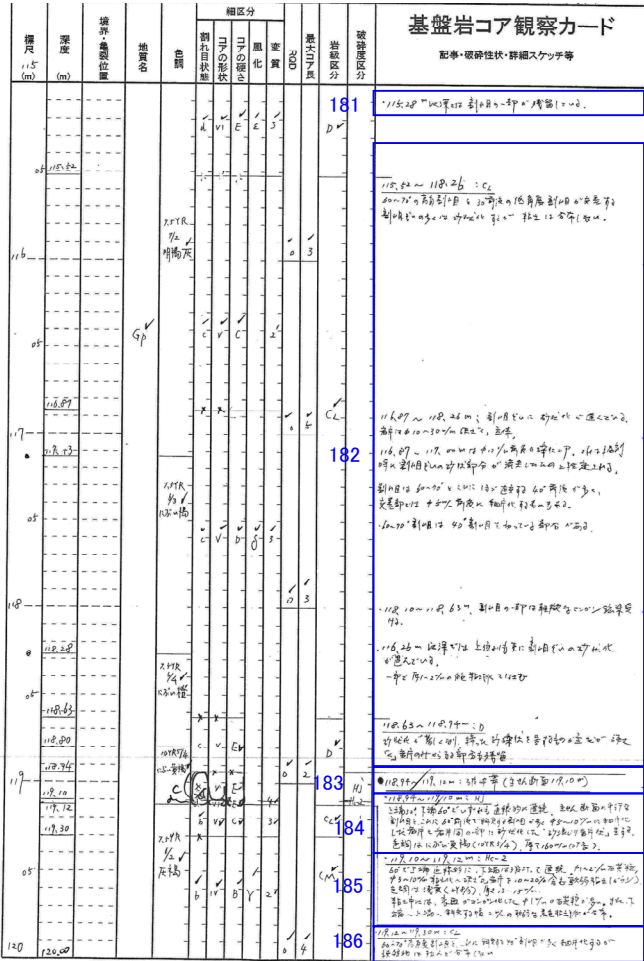
標尺	標高	深 度	柱 状	岩 種	色 調	岩 級	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R Q D (%)	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	記 事		
m	m	m	図	区 分	調	分	(%)	(cm)	(%)	0.20	40	50	80.100	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
164~170	・記載漏れのため比較対象無し。※2

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
181 115.28m以深では割れ目の一部が残留している。
115.52～118.26:CL 60～70°の高角割れ目と30°前後の低角度割れ目が交差する割れ目ぞいの多くは砂状化するが粘土は分布しない。
116.87～118.26m 割れ目ぞいに砂状化が進んでいる。岩片はφ10～30m/m硬さ「C」主体。 116.87～117.00mはφ10m/m前後の礫状コア。これは掘削時に割れ目ぞいの砂状部分が流失したためと推定される。 割れ目は60～70°とこれにほぼ直交する40°前後が多く、交差部ではφ5m/m前後に細片化するものもある。 60～70°割れ目は40°割れ目を切っている部分がある。 118.10～118.63m 割れ目の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。 116.26m以深では上位よりも更に割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。一部で厚1～2m/mの白色粘土脈をはさむ 118.63～118.94m:D 砂状化が著しくなり、締った砂礫状を呈するものが主だが硬さ「C」岩片のみからなる部分も残留
183 ●118.94～119.12m:破碎帯(主せん断面119.10m)
118.94～119.10m:Hj 上端32°、下端60°でいずれも直線的に連続。主せん断面に平行な割れ目とこれに60°前後で斜交する割れ目が多くφ5～10m/mに細片化した岩片と岩片間の一部に砂状化した「砂混じり岩片状」呈する。 色調はにぶい黄褐(10YR5/4)、厚さ160m/m(コア長)。
184 119.10～119.12m:Hc-2 60°で上端直線的に、下端は波打って連続。φ1～2m/m石英粒、φ3～10m/m粘土化～硬さ「D」岩片を10～20%含む軟弱粘土(ガウジ) 色調は浅黄(5Y8/3)、厚さ13～15m/m 粘土中には、表面がマンガン化したφ1m/mの石英粒が多い。また下端～上端へ斜交する幅2m/mの軟弱な黒色粘土脈が分布。
185 119.12～119.30m:CL 60～70°高角度割れ目とこれに斜交する40°割れ目が多く細片化するが挟雑物は殆んど分布しない
186

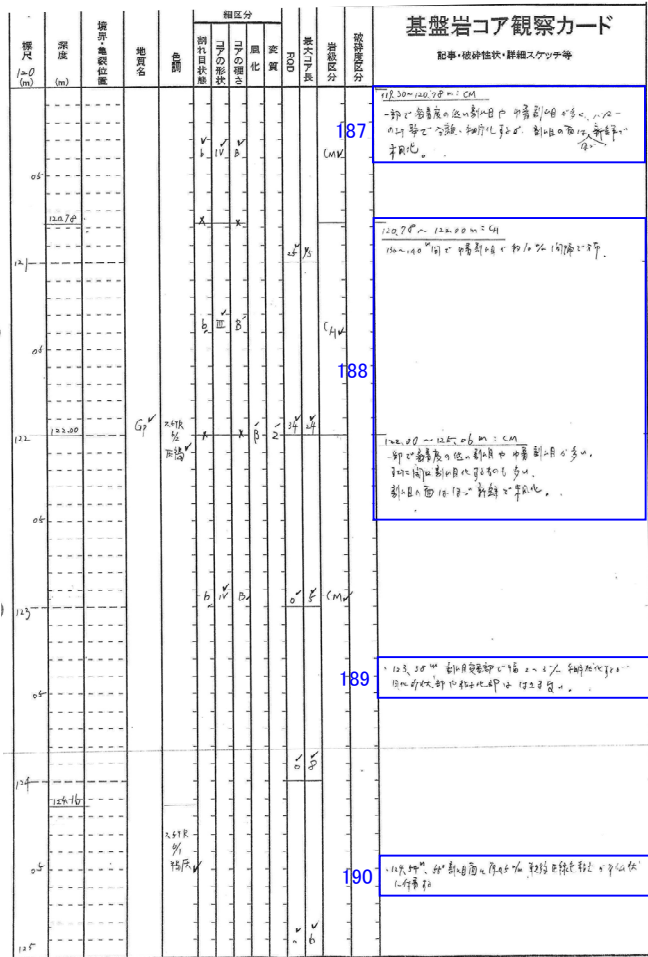
標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	採取率(%)	記事
m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
181～186	・記載漏れのため比較対象無し。※2

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
119.30~120.78m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。
120.78~122.00m: CH 130~140m間でゆる割れ目が約10m/m間隔で分布。
122.00~125.06m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。 すでに開口割れ目化するものも多い。 割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。
123.38m 割れ目交差部で幅2~3m/m細片状化するが、風化砂状部や粘土化部ははさまない。
124.54m 55° 割れ目面に厚0.5m/m、軟弱灰緑色粘土がフィルム状に付着する。

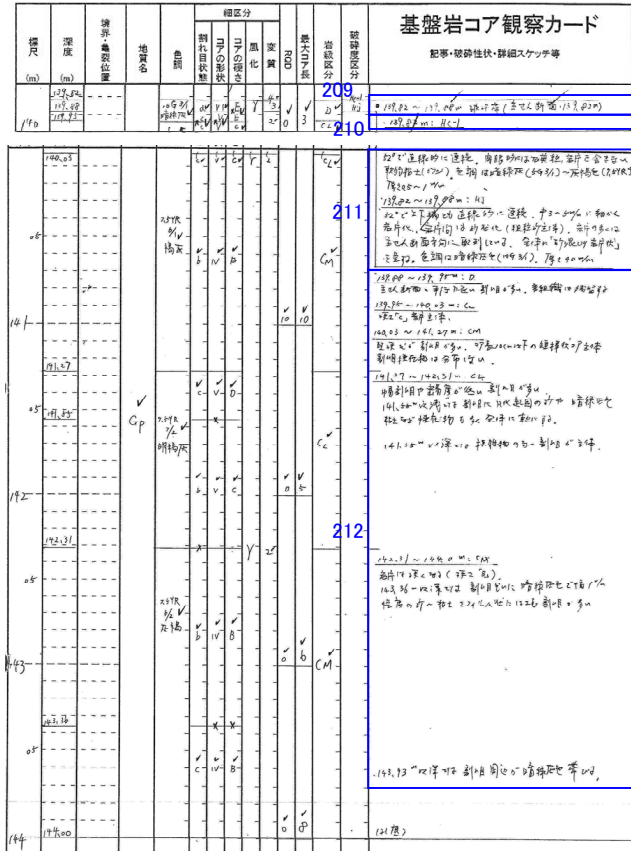
標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	記事
						灰褐	CM'	100	15	25		B	119.30~138.00m 硬質であるが、全依に割れ目が多く、岩片~短柱状を主体とする。				
						灰褐	CH	100	24	34			119.30~138.00m 硬質であるが、全依に割れ目が多く、岩片~短柱状を主体とする。				
						灰褐	CM'	100	5	0			125.06~125.28m 割れ目沿いに細片状を呈する。 割れ目には挟在物は見られない。				
						灰褐	CM'	100	8	0			127.16~127.25m 僅10mm前後の角礫状を呈する。				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
187	・記載漏れのため比較対象無し。※2
188	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況・風化状況については、補足的なものであるため削除。
189	・細片化が見られるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
190	・粘土の挟在が見られるが、幅狭く、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
B	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質である、岩片~短柱状を主体とすると記載。

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事	記事内容
209	●139.82~139.88m破砕帯(主せん断面139.82m)
210	139.82m:Hc-1
211	52°で直線的に連続。肉眼的には石英粒、岩片を含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調は暗緑灰(5G3/1)~灰褐色(7.5YR4/1)、厚さ0.5~1m/m 139.82~139.88m:Hj 52°で上下端とも直線的に連続。φ3~5m/mに細かく岩片化。岩片間は砂状化(粗粒砂主体)。岩片の多くは主せん断面方向に配列している。全体に「砂混じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰色(10G3/1)。厚さ40m/m 139.88~139.95m:D 主せん断面と平行に近い割れ目が多い。岩組織は残留する。 139.95~140.03m:CL 硬さ「C」岩片主体。 140.03~141.27m:CM 堅硬だが割れ目が多い。コア長10cm以下の短棒状コア主体 割れ目挟在物は分布しない。 141.27~142.31m:CL ゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が多い 141.55m以浅では割れ目に風化起因の砂や暗緑灰色粘土など挟在物も多く全体に軟化する。 141.55m以深では挟雑物のない割れ目が主体。 142.31~144.0m:CM 岩片は硬くなる(硬さ「B」)。 143.36m以深では割れ目ぞいに暗緑灰色で幅1m/m程度の砂~粘土をフィルム状にはさむ割れ目が多い 143.93m以深では割れ目周辺が暗緑灰色帯びる。
212	(孔底)

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	記事
m	m	m	図	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	
				灰	CM	100	6	0			135.80~136.00m ・割れ目沿いに、径10~30mmの細片化している。 ●139.82~139.88m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる ・暗緑灰~灰褐色の粘土状~暗緑灰色の砂混じり礫状を呈する。 ・暗緑灰~灰褐色粘土・累計厚1mm ・走向・傾斜はN27°E88°Eである。 ・傾斜は52°である。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は52°である。
						100	11	11			
						100	6	0			
						100	12	23			
					CL	100	3	0			209~211

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
209~211	<ul style="list-style-type: none"> ・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し(砂混じり岩片状→砂混じり礫状) ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
212	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・割れ目の有無、割れ目の密着状態、色調については、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないため削除。

余白

H27-B-2

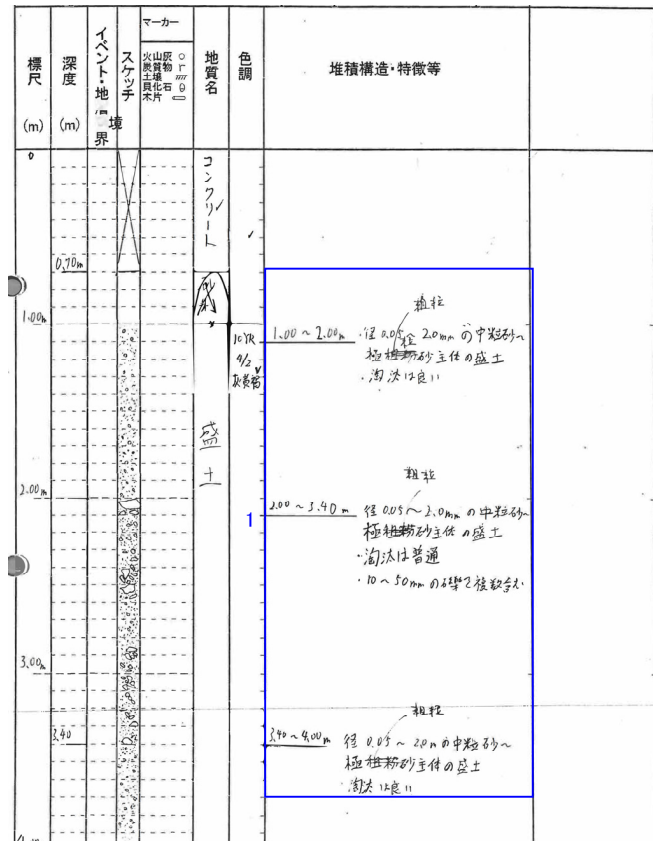
余白

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭 --- 不明瞭 --- 亀裂は赤線, 角度, 索線等

記事内容
1.00~2.00m 径0.05~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土 淘汰は良い
2.00~3.40m 径0.05~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土 淘汰は普通 10~50mmの礫を複数含む
3.40~4.00m 径0.05~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土 淘汰は良い

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	コア採取率	最大コア長	記事
m	m	m	図	分	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)	(cm)
	19.62	0.70		アプライト			100					0.00~0.70m		・コンクリートである。
				灰黄褐			100					0.70~12.33m		・盛土である。
				盛土			100							・最上部300mmは砕石である。

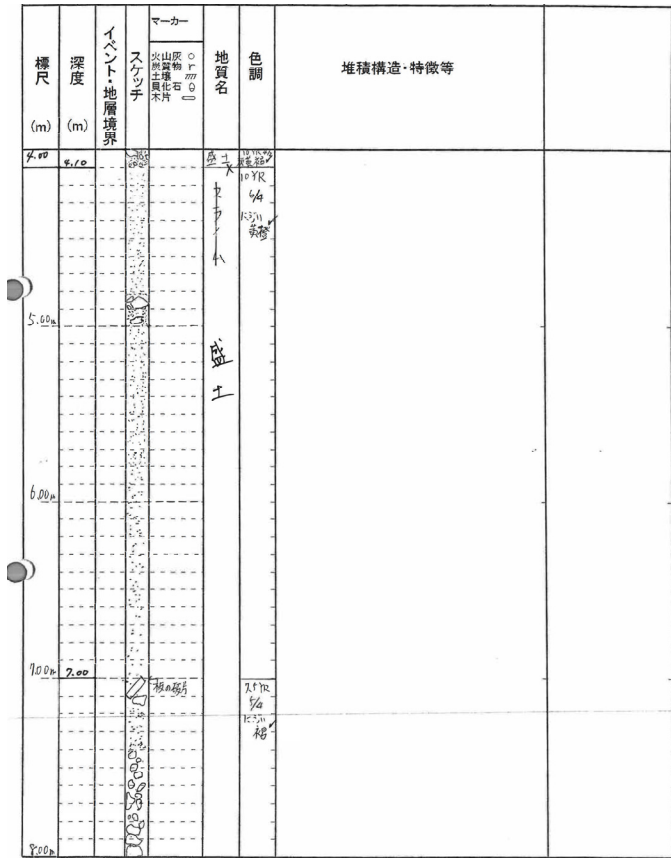
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
A	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。
1	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・“地質名”欄の砂利との記載に基づき砕石、“標尺”欄及び“深度”欄に基づき、最上部300mmと記載。なお、最上部300mmは300mmの誤り。※2

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



スケッチ: 線はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩 Gr, 花崗斑岩 Gp, アブライト Ap 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角, 点線等

記事内容

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 ⁽³⁾ 最大コア長 (cm)			記事
												R	Q	D	
				灰黄粘			100					0.70	12.33m		・ 盛土である。 ・ 最上部300mmは砕石である。
				にふい黄粘			100								
				盛土			100								
				にふい黄粘			100								
				灰黄粘			100								
				にふい黄粘			100								
				灰黄粘			100								
				にふい黄粘			100								
				灰黄粘			100								
				明礫層			100								

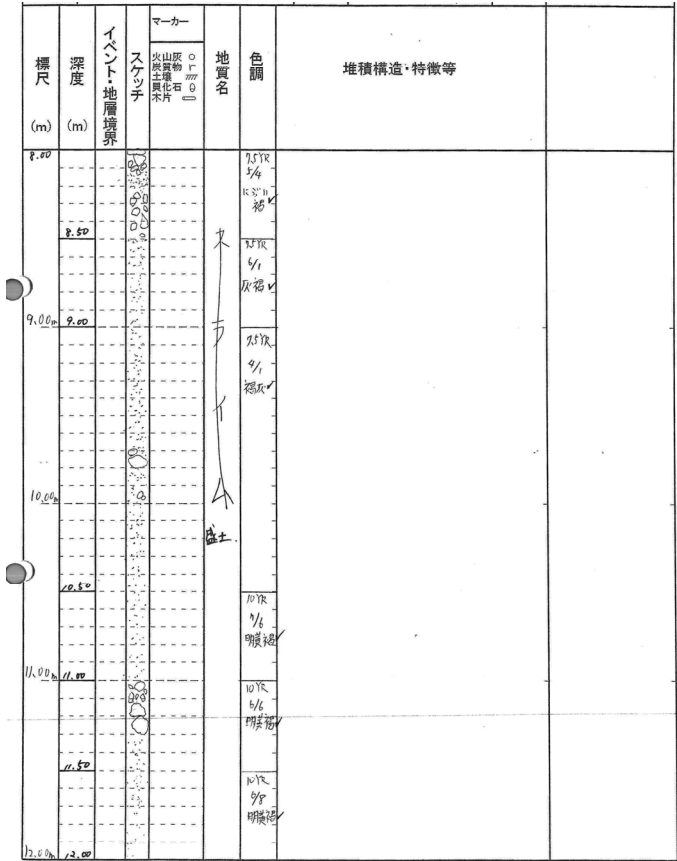
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
-	-

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事	
		8.00	X	灰質砂		100								0.70~12.33m ・盛土である。 ・最上部300mmは砕石である。	
		8.50		にふい黄砂		100									
		9.00		にふい黄砂		100									
		9.50		にふい黄砂		100									
		10.00		にふい黄砂		100									
		10.50		にふい黄砂		100									
		11.00		にふい黄砂		100									
		11.50		にふい黄砂		100									
		12.00		にふい黄砂		100									
		12.50													

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
-	-

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	採り位置	地層名	細区分										記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
				色	割れ目状態	コアの形状	風化	RQD	最大コア長	岩級区分	岩盤区分	岩種	色		岩級区分
15.07			7/6 明礫灰												15.00~15.09m スライムのため判別不可
															15.62~15.66m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
															15.80~16.00m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
16.00															16.30~16.51m 割れ目に沿った緑泥石が発達
															16.76~16.86m マンガン濃集部が密集している
															16.92~16.93m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
19.00															17.10m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
															17.16m 以深は上位に比べ割れ目や少なくなる
															17.57~17.64m 割れ目に沿って緑泥石が発達
															17.70~17.80m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
															17.90~17.94m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
															19.59~19.80m 10m/m程度間隔で割れ目あり。マンガンと石英を伴う。
															19.70m 以浅は風化が進み軟質化する

記事内容
15.00~15.09m スライムのため判別不可
15.62~15.66m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
15.80~16.00m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
16.30~16.51m 割れ目に沿って緑泥石が発達
16.76~16.86m マンガン濃集部が密集している
16.92~16.93m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
17.10m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
17.16m 以深は上位に比べ割れ目や少なくなる
17.57~17.64m 割れ目に沿って緑泥石が発達
17.70~17.80m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
17.90~17.94m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
19.59~19.80m 10m/m程度間隔で割れ目あり。マンガンと石英を伴う。
19.70m 以浅は風化が進み軟質化する

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 (m)	岩種 区分	色	岩級 区分	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	記事
						100	3	0		13.53~13.75m ・花崗岩である。
						100	3	0		
						100	3	0		
						100	4	0		7 19.59~19.80m ・10m程度の間隔で、割れ目が分布する。
						100	4	0		21.79~21.83m ・割れ目沿いに砂状化している部分が多い。
						100	4	0		28.02~28.88m ・割れ目が多く、岩片~層状を呈する。
						100	10	10		●21.15~31.68m ・破砕部である。
						100	12	12		・正断層センスである。
						100	8	0		・灰黄色の砂質じり粘土→明赤灰色の硬質粘土状~にぶい黄緑~にぶい橙色の粘土質じり層状を呈する。
						100	23	23		・定向・傾斜は7~78°である。
						100	15	27		・傾斜は38°である。
						100	7	0		・上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は43°である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
6	<ul style="list-style-type: none"> マンガン、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 スライム区間については、ポアホールテレビによる観察結果から、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため、コア写真で示すこととし削除。 割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
7	<ul style="list-style-type: none"> マンガン、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
8	<ul style="list-style-type: none"> 風化を伴う硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 深さ (m)	深度 (m)	地質名	地層名	地色	細区分					岩級区分	硬さ区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目性状	風化	崩壊	崩壊	崩壊			
0.5												
1.0												
1.5												
2.0												
2.5												
3.0												
3.5												
4.0												
4.5												
5.0												

記事内容
9 20.90m 0° 割れ目ぞい約10m/m砂状化
10 21.90m φ10m/m石英が80° 割れ目(sj)で切られる(右ズレ10m/m)
11 21.79~26.82m 硬さ「C」が主体であるが、硬さ「D」も含み両者が交互に出現する。 割れ目ぞいに風化で砂状化する部分が多い。
12 22.18~22.49mは硬さ「B」で硬質
13 23.52m・30° と23.82m・20° の各割れ目に厚さ1m/m半固結状の灰褐色粘土脈はさむ

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	最大	R	Q	最大	コア	採取	記事
m	m	m	図	調	区分	コア長 (cm)	率 (%)	D (%)	R	Q	D	
						100	3	0				13.53~13.75m ・花崗岩である。
						100	3	0				19.59~19.80m ・10m程度の間隔で、割れ目が分布する。
						100	4	0				21.79~26.82m ・割れ目ぞいに砂状化している部分が多い。
						100	4	0				28.02~29.88m ・割れ目が多く、岩片→塵状を呈する。 ・傾斜は31.6度 ・破砕部である。
						100	6	0				・正断層センスである。 ・灰褐色の砂質粘土状→明灰色の硬質粘土状→にない黄褐色にない褐色の粘土混じり塵状を呈する。
						100	12	12				・灰褐色の砂質粘土状→明灰色の硬質粘土状→にない黄褐色にない褐色の粘土混じり塵状を呈する。
						100	8	0				・走向・傾斜は7.78°である。 ・傾斜は38°である。
						100	15	27				・上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は43°である。
						100	7	0				

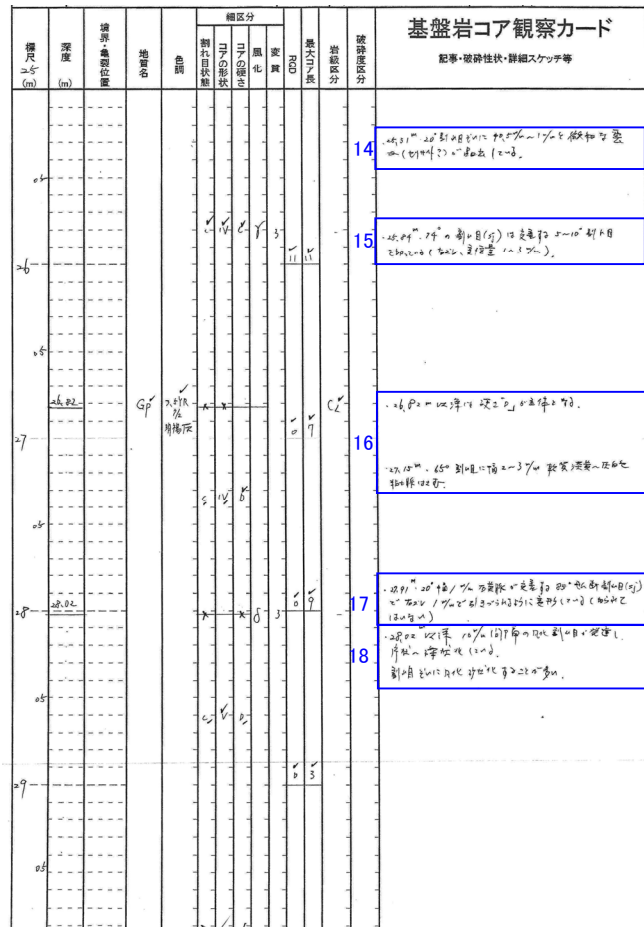
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
9	・割れ目ぞいに砂状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
10	・石英を切る箇所が不明であり、割れ目は直線性や連続性に乏しいことから削除。
11	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。 ・風化の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないことから削除。
12	・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
13	・一部に粘土を挟在するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。

H27-B-2

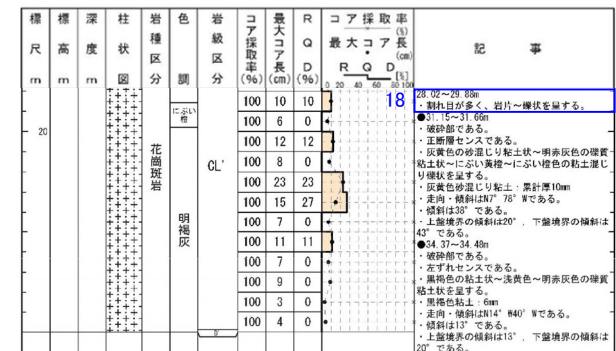
コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
14 25.31m 20° 割れ目ぞいにφ0.5m/m~1m/mと微細な雲母(セリサイト?)が晶出している。
15 25.84m 74° の割れ目(sj)は交差する5~10° 割れ目を切っている(右ズレ、変位量1~3m/m)。
16 26.82m以降は硬さ「D」が主体となる。 27.15m 65° 割れ目に幅2~3m/m軟質淡黄~灰白色粘土脈はさむ。
17 27.91m 20° 幅1m/m石英脈が交差する85° せん断割れ目(sj)で右ズレ1m/mで引きつられるように変形している(切られてはいない)
18 28.02m以深、10m/m間隔の風化割れ目が発達し、片状~礫状化している。割れ目ぞいに風化砂状化することが多い。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
14	・割れ目に晶出した鉱物については、補足的なものであるため削除。
15	・低角度割れ目に変位がないため削除。
16	・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部で粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
17	・石英脈の変形が不明瞭であり、割れ目は連続性に乏しいことから削除。
18	・“コアの形状”欄に基づき、29.88mと記載。 ・一部割れ目沿いに砂状化するが、いずれも連続性や直線性に乏しいことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層厚 ユウ (m)	深度 (m)	境界 位置	地層 名	色調	割れ 目	粘 土	質 量	硬 度	R Q	最大 コア 長	記事
30	29.88										
0.5	30.38										
0.5	30.88										
0.5	31.38										
0.5	31.88										
0.5	32.38										
0.5	32.88										
0.5	33.38										
0.6	33.98										

記事内容
19 29.88~30.82m: D 概ねφ10m/m以下に砕けている
20 風化で割れ目ぞいに砂状化が拡大している。 φ5~30m/mの硬さ「D」「C」岩片が多く残留し、締った「砂礫状」を呈する。 基質は砂状部が主体であるが、灰白色粘土化部も散在している。 岩組織や上部の割れ目は残留している。
21 30.82~31.15m: CL 割れ目ぞいに砂状化することが多い。
22 ●31.15~31.66m: 破砕帯(主せん断面31.29m) 31.15~31.24m: Hj 上端20°で直線的、下端15~28°で湾曲して連続。一部粘土化したφ5~10m/m岩片と岩片間の粘土~幅1~2m/m粘土細脈からなり「粘土混じり岩片状」呈する。色調はにぶい黄橙(10YR 7/2)、厚さ80~90m/m
23 31.24~31.28m: Hb 上端15~28°で湾曲して、下端38°で波打って連続。φ2~3m/m石英粒、φ5~10m/mの大半が粘土化した岩片計20~30%を含む固結状の「礫質粘土」状呈する。色調は明赤灰(2.54R 7/2)、厚さ20~30m/m
24 31.28~31.29m: Hc-2 38°で上端波打って、下端は直線的に連続。φ2~3m/m石英粒を10~20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐(10YR 4/2)、厚さ5~10m/m
25 31.29~31.66m: Hj 上端38°で直線的に、下端43°で波打って連続。φ5~20m/m硬さ「C」主体(他に粘土化、硬さ「D」「E」含む)と岩片間の粘土からなり「粘土混じり岩片状」呈する。色調はにぶい橙(7.5YR 7/3)、厚さ350m/m(コア長)。

標尺	高度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率(%)	最大コア長D(cm)	R	Q	記事
20	100	10	10	10	10	100	6	0	●31.15~31.66m 破砕部である。 正断層センスである。 灰黄色の粘土状~灰白色の礫質粘土状~にぶい黄橙~にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈する。 灰黄色粘土厚計10mm 走向・傾斜は47°/75°である。 傾斜は38°である。 上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は47°である。	
	100	12	12	12	12	100	8	0	●31.37~31.48m 破砕部である。 右すれセンスである。 礫質の粘土状~灰黄色~明赤灰色の礫質粘土状を呈する。 黒褐色粘土、6mm 走向・傾斜は14°/40°である。 傾斜は13°である。 上盤境界の傾斜は13°、下盤境界の傾斜は20°である。	
	100	23	23	23	23	100	15	27	●35.36~35.46m 破砕部である。 灰白~灰褐色の粘土状~灰黄~橙灰色の粘土混じり礫状~粘土質礫状を呈する。 灰白~灰褐色粘土、15mm 走向・傾斜はN69°E79°である。 傾斜は47°である。 上盤境界の傾斜は47°、下盤境界の傾斜は20°~35°である。	
	100	7	7	7	7	100	11	11	●35.66~35.73m 破砕部である。 灰黄色の粘土状~灰白色の礫質粘土状~明赤灰色の粘土質礫状を呈する。 灰黄色粘土、2mm 上盤境界の傾斜は27°、下盤境界の傾斜は12°である。	
	100	9	9	9	9	100	3	0	●35.92~35.95m 破砕部である。 灰オリーブ色の粘土状~灰白色の礫質粘土状を呈する。 灰オリーブ色粘土、5mm 走向・傾斜はN44°E60°である。 傾斜は35°である。 上盤境界の傾斜は35°、下盤境界の傾斜は45°である。	
	100	4	4	4	4	100	3	0		
	100	2	2	2	2	100	1	0		
	100	1	1	1	1	100	2	0		
	100	3	3	3	3	100	3	0		
	100	5	5	5	5	100	5	0		

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
19, 20	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 締まった砂礫状を呈し、一部で粘土を含むが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
21	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 割れ目沿いに砂状化するが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
22~25	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) φ2~3mm石英粒を10~20%含むとの記載に基づき、砂混じり粘土状と記載。 灰黄褐色→灰黄色※1 粘土の累計幅については、最大値を記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	採取番号	地質	細区分	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード
36	35.48				C4		30 34.48~35.13m: CL 34.59m・29° と34.67m・50° は68° 幅1m/m石英脈を切るせん断割れ目 (si)
36	35.36				Hj		31 35.36~35.46m: Hj 35.36~35.39m: Hj 35.39~35.40m: Hc-1
36	35.40				Hj		32 35.40~35.46m: Hj 35.40~35.46m: Hj 35.40~35.46m: Hj
36	35.46				Hc-1		33 35.46~35.68m: D 35.46~35.68m: D
37	35.68				D		34 35.68~35.92m: D 35.68~35.92m: D
37	35.92				D		35 35.92~36.16m: D 35.92~36.16m: D

記事内容
30 34.48~35.13m: CL 34.59m・29° と34.67m・50° は68° 幅1m/m石英脈を切るせん断割れ目 (si)
31 35.36~35.46m: Hj 35.36~35.39m: Hj 35.39~35.40m: Hc-1
32 35.40~35.46m: Hj 35.40~35.46m: Hj 35.40~35.46m: Hj
33 35.46~35.68m: D 35.46~35.68m: D
34 35.68~35.92m: D 35.68~35.92m: D
35 35.92~36.16m: D 35.92~36.16m: D

標尺 (m)	深度 (m)	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	最大コア長 (cm)	記事
						100	11	11			34 37~34.48m 破砕部である。 左ずれセリスである。 黒褐色の粘土状~淡黄色~明灰色の硬質粘土状を呈する。 黒褐色粘土: 6mm 走向・傾斜はN40° E40° Wである。 傾斜は13° である。 上盤境界の傾斜は15°、下盤境界の傾斜は20° である。
						100	7	0			35 36~35.46m 破砕部である。 灰白~灰褐色の粘土状~灰黄~相灰色の粘土混じり硬質~粘土質硬質を呈する。 灰白~灰褐色粘土: 15mm 走向・傾斜はN60° E70° Wである。 傾斜は47° である。 上盤境界の傾斜は47°、下盤境界の傾斜は20°~25° である。
						100	9	0			36 35.40~35.46m 破砕部である。 灰褐色の粘土状~淡黄色の硬質粘土状~明灰色の粘土質硬質を呈する。 灰黄褐色粘土: 2mm 傾斜は12° である。 上盤境界の傾斜は12°、下盤境界の傾斜は12° である。
						100	3	0			37 35.46~35.68m 破砕部である。 灰白~灰褐色の粘土状~灰白色の硬質粘土状を呈する。 灰オリブ色粘土: 5mm 走向・傾斜はN4° E66° Wである。 傾斜は35° である。 上盤境界の傾斜は35°、下盤境界の傾斜は45° である。
						100	4	0			38 35.68~35.92m 破砕部である。 灰白~灰褐色の粘土状~灰白色の硬質粘土状を呈する。 灰オリブ色粘土: 5mm 走向・傾斜はN4° E66° Wである。 傾斜は35° である。 上盤境界の傾斜は35°、下盤境界の傾斜は45° である。
						100	3	0			39 35.92~36.16m 破砕部である。 灰白~灰褐色の粘土状~灰白色の硬質粘土状を呈する。 灰オリブ色粘土: 5mm 走向・傾斜はN4° E66° Wである。 傾斜は35° である。 上盤境界の傾斜は35°、下盤境界の傾斜は45° である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
30	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 せん断性割れ目が分布するが、割れ目沿いの岩盤の劣化が認められないことから削除。
31~34	<ul style="list-style-type: none"> 表現の見直し(粘土混じり岩片状~粘土質岩片状~粘土混じり礫状~粘土質礫状) 粘土の累計幅については、最大値を記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 縞状模様については、色調で示していることから削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
35	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその深度区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 粘土化が進行しているが、劣化に系統性が認められないことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層位	深度(m)	岩種	色	粒度	構造	観察区分		備考
						上部	下部	
36	35.68	破砕帯	主せん断面	35.73m				
37	35.68	Hj						
38	35.72	Hb						
39	35.72	Hc-1						
40	35.92	D						
41	35.92	Hc-1						

記事内容
36 ●35.68～35.73m:破砕帯(主せん断面35.73m) 35.68～35.72m:Hj 上端27°の褐色軟質粘土で波打って、下端20°で不明瞭ながら波打って連続。φ3～φ5m/m。粘土化岩片主体で「粘土質岩片状」呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2)、厚さ35～50m/m
37 35.72～35.73m:Hb 上端20°で波打って、下端12°で直線的に連続。φ1～2m/m石英粒を20%程度含む半固結状の「礫質粘土」呈する。色調は淡黄色(2.5Y 8/3)、厚さ10m/m
38 35.73m:Hc-1 12°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない(5%以下)軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐(10YR 6/2)、厚さ1～2m/m
39 35.68～35.92m:D 上下を破砕帯に囲まれ、粘土化が進んでいる。
40 ●35.92～35.95m:破砕帯(主せん断面35.92m) 35.92m:Hc-1 35°で上下端とも小さく波打って膨縮しながら連続。石英粒、岩片は殆んど含まない(5%以下)半固結状の粘土(ガウジ)。色調は灰オリープ(4.5Y 6/2)、厚さ1～5m/m
41 35.92～35.95m:Hb 上端35°、下端45°でいずれも小さく波打って連続。φ1～2m/m石英粒、φ2～5m/m粘土化岩片を20～30%含む半固結状の「礫質粘土」呈する。主せん断面と平行方向に幅1m/m以下の灰赤色粘土細脈が数条分布。色調は灰白色(2.5Y 8/2)、厚さ20m/m

層位	深度(m)	岩種	色	粒度	構造	観察区分	備考
36	35.68	破砕帯	主せん断面	35.73m			
37	35.68	Hj					
38	35.72	Hb					
39	35.72	Hc-1					
40	35.92	D					
41	35.92	Hc-1					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
36～38	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の見直し(粘土質岩片状→粘土質礫状) ・灰黄褐色→灰黄色※1 ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
39	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその深度区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・粘土化が進行しているが、劣化に系統性が認められないことから削除。
40, 41	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hb区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粘土細脈が分布するが、いずれも連続性や直線性に乏しいことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	境界 位置	地層 記号	細区分				粗区分	記号	備考
				1	2	3	4			
37	36.76		Gp					Cg		<p>基盤岩コア観察カード 部番・種別・状況・採取場所等</p> <p>このコアは、掘削機で採取されたものである。</p> <p>36.60～36.76m: D 36.60～36.76m: D 36.60～36.76m: D 36.60～36.76m: D 36.60～36.76m: D 36.60～36.76m: D 36.60～36.76m: D 36.60～36.76m: D 36.60～36.76m: D 36.60～36.76m: D</p>
37	36.60							Cg		
37	36.44							Cg		
37	36.28							Cg		
37	36.12							Cg		
37	35.96							Cg		
37	35.80							Cg		
37	35.64							Cg		
37	35.48							Cg		
37	35.32							Cg		

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
<p>35.95～36.76m: D 36.05m以下は粘土化進み岩組織が消滅している。 36.05m以下、割れ目、岩組織ともに残留。36.60～36.70mマンガン鉱染が著しい。 36.76～37.12m: CL 割れ目ぞいに砂状化する部分もある。 37.12～37.60m: CM 岩片は硬いが(硬さ「B」)、一部の割れ目で幅1～3m/mと薄く砂状化する。 37.60～38.05m: CL 割れ目ぞいに幅10m/m程度と風化が進行している。 38.05～38.46m: CM 岩片は硬質で割れ目少なく、割れ目には挟雑物ははさまない。 38.46～39.78m: CL 39.60～39.69mは硬さ「D」ないし「E」で、上端側辺りには砂状化している。</p>

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	岩 級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R D	Q	最大 コア 長 (cm)	記事
37	36.76		D			100	11	11			●34.37～34.40m ・破砕部である。 ・左ずれセリスである。 ・黒褐色の粘土状～淡黄色～明灰色の硬質粘土状を呈する。 ・黒褐色粘土: 6mm ・走向・傾斜はN40°Eである。 ・傾斜は13°である。 ・上盤境界の傾斜は13°、下盤境界の傾斜は20°である。
37	36.60		D			100	7	0			●35.36～35.40m ・破砕部である。 ・灰白～灰褐色の粘土状～灰黄～相灰色の粘土層状～粘状～粘土質砂状を呈する。 ・灰白～灰褐色粘土: 15mm ・走向・傾斜はN60°E70°である。 ・傾斜は47°である。 ・上盤境界の傾斜は47°、下盤境界の傾斜は20°～25°である。
37	36.44		D			100	9	0			●35.66～35.73m ・破砕部である。 ・灰黄色の粘土状～淡黄色の硬質粘土状～明灰色の粘土質砂状を呈する。 ・灰黄色粘土: 2mm ・傾斜は12°である。 ・上盤境界の傾斜は12°、下盤境界の傾斜は12°である。
37	36.28		D			100	3	0			●35.92～35.95m ・破砕部である。 ・灰オリーブ色の粘土状～灰白色の硬質粘土状を呈する。 ・灰オリーブ色粘土: 5mm ・走向・傾斜はN4°E66°である。 ・傾斜は35°である。 ・上盤境界の傾斜は35°、下盤境界の傾斜は45°である。
37	36.12		D			100	4	0			
37	35.96		D			100	3	0			
37	35.80		D			100	2	0			
37	35.64		D			100	1	0			
37	35.48		D			100	2	0			
37	35.32		D			100	3	0			
37	35.16		D			100	7	0			
37	35.00		D			100	10	10			
37	34.84		D			100	8	0			
37	34.68		D			100	8	0			
37	34.52		D			100	2	0			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
42	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級区分及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・マンガン、割れ目の挟在物の有無については補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目治いに砂状化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・37.60～38.05mの風化の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないことから削除。

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地層名	細区分										基盤岩コア観察カード 観察・硬軟性状・詳細スケッチ等		
				割れ目状態	コアの形状	風化	変質	色	硬軟	その他	岩級区分	岩種区分	その他			
43				割れ目 3/4	CL	CL										43.09~43.30m および 43.50~43.71m 硬さ「D」が中石的に残留している。
44	43.75 43.20			割れ目 3/4	CL	CL										43.46~43.55m 割れ目ぞいにマンガン鉱染が著しい色調は黒褐色化する。
45				割れ目 3/4	CL	CL										43.94~45.96m: CL 割れ目ぞいに風化で砂状化が進む部分も含む。一部の岩片は硬さ「C」と硬質で残留する。
45				割れ目 3/4	CL	CL										44.77m 45° 割れ目ぞい幅20~25m/mは淡緑灰色化する。緑泥石化変質と推定される。

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
43.09~43.30mおよび43.50~43.71m 硬さ「D」が中石的に残留している。
43.46~43.55m 割れ目ぞいにマンガン鉱染が著しい色調は黒褐色化する。
43.94~45.96m: CL 割れ目ぞいに風化で砂状化が進む部分も含む。一部の岩片は硬さ「C」と硬質で残留する。
44.77m 45° 割れ目ぞい幅20~25m/mは淡緑灰色化する。緑泥石化変質と推定される。

申請書用柱状図

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	最大コア長 (cm)	記事
40											
					CL	100	2	0			
					D	100	5	0			
					D	100	3	0			
					D	100	3	0			
					CL	100	3	0			

41.90~43.04m
砂~砂礫状を呈する。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
45	<ul style="list-style-type: none"> 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 マンガンや割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 一部割れ目沿いで砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 番号 位置	地名	色	細区分				岩盤区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・硬軟性状・詳細スケッチ等
					割れ目状無 F10の割合	風化	質	ROD			
0.6	45.10				✓	✓	✓	3			45.10~45.25m 硬さ「C」の硬質岩片が分布
0.6	45.96				✓	✓	✓	2	C4	46	45.96~46.31m間は硬さ「C」で硬質。割れ目は厚さ1~3m/m程度で砂状化する。
0.7	46.74				✓	✓	✓	2		47	46.74~46.85m 割れ目ぞいに砂状化進み、硬さ「E」が主体。 47.90~47.06m 珪化により二次石英がφ1~3m/m斑点状~幅1~2m/mの脈状で晶出し、全体が硬さ「C」と硬質。
0.5	47.06				✓	✓	✓	2		47	47.06~47.50m:D 岩組織と割れ目は消滅している。 硬さ「D」主体のφ3~10m/mの細岩片化している。
0.5	47.50				✓	✓	✓	2		48	47.50~48.80m:CL 47.85m以浅は硬さ「D」主体、47.85m以深は硬さ「C」主体で、47.85m以浅は風化で割れ目ぞいの一部で砂状化進み、岩片自身も軟質化している。
0.5	48.12				✓	✓	✓	2		49	48.12~48.16m 上端38°、下端20°の割れ目に囲まれ締った砂状化を呈する。 48.40~48.49mも上記同様に締った砂状化呈する。 48.49~48.88m 60~70°割れ目主体。割れ目に砂や粘土の挟在物が分布する。(これら割れ目は主せん断面と同方向に近い)

記事内容
45.10~45.25m 硬さ「C」の硬質岩片が分布
45.96~46.31m間は硬さ「C」で硬質。割れ目は厚さ1~3m/m程度で砂状化する。
46.74~46.85m 割れ目ぞいに砂状化進み、硬さ「E」が主体。 47.90~47.06m 珪化により二次石英がφ1~3m/m斑点状~幅1~2m/mの脈状で晶出し、全体が硬さ「C」と硬質。
47.06~47.50m:D 岩組織と割れ目は消滅している。 硬さ「D」主体のφ3~10m/mの細岩片化している。
47.50~48.80m:CL 47.85m以浅は硬さ「D」主体、47.85m以深は硬さ「C」主体で、47.85m以浅は風化で割れ目ぞいの一部で砂状化進み、岩片自身も軟質化している。
48.12~48.16m 上端38°、下端20°の割れ目に囲まれ締った砂状化を呈する。 48.40~48.49mも上記同様に締った砂状化呈する。 48.49~48.88m 60~70°割れ目主体。割れ目に砂や粘土の挟在物が分布する。(これら割れ目は主せん断面と同方向に近い)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色	岩 級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
				崩壊岩		CL	100	3	0			
				明褐色		CL	100	3	0			
				明褐色		CL	100	5	0			
				明褐色		CL	100	4	0			47.06~47.50m 角礫状を呈する。
				明褐色		CL	100	8	0			48.88~48.92m 角礫状を呈する。 破砕部である。カタクレーサイトからなる。
				明褐色		CL	100	14	14			黒褐色の砂質しり乾土状~灰黄緑~黒褐色の硬質粘土状を呈する。 黒褐色砂質しり乾土。累計厚1mm 走向~傾斜はN40°E70°である。 傾斜は55°である。 上邊境界の傾斜は55°、下邊境界の傾斜は55°である。 51.51~52.42m 割れ目ぞいに砂状化しており、一部砂状化を呈する。
				明褐色		CL	100	10	10			
				明褐色		CL	100	8	0			
				明褐色		CL	100	11	11			
				明褐色		CL	100	9	0			
				明褐色		CL	100	4	0			
				明褐色		D	100	4	0			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
46	<ul style="list-style-type: none"> 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 一部割れ目ぞいで砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
47	<ul style="list-style-type: none"> “コアの形状”欄に基づき、角礫状と記載。 岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 岩組織と割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
48	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 47.50~47.85mの割れ目ぞいで一部砂状化するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
49	<ul style="list-style-type: none"> 48.12~48.16mで締まった砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 48.40~48.49mで締まった砂状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 48.49~48.88mで砂や粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	境界 位置	心管 位置	細区分				RQD	最大コア長	岩級区分	破砕帯区分	基盤岩コア観察カード 記号・特徴性状・詳細スケッチ等
				新 規 採 取 部	旧 採 取 部	崩 壊 部	他 の 特 徴					
0.9	48.88			CL							48.88m: Hc-2 56°で上下端とも直線的に連続。φ0.5~1m/mの石英粒を20%程度含む半固結状の粘土(ガウジ)。色調は、黒褐色(10YR 3/1)、厚さ1m/m、マンガン鉱染を伴っている。 48.88~48.92m: Hb 上端56°、下端53°でいずれも直線的に連続。φ1~3m/m石英粒、φ3~5m/m硬さ「D」岩片を20~30%含む半固結状の「礫質粘土状」呈する。下端部にマンガン鉱染伴う。 色調は灰黄褐(10YR 4/2)~黒褐色(10YR 3/1・下部のみ)、厚さ20m/m	
0.5	48.92			CL							48.92~52.42m: CL 概ね長さ5cm前後の短柱状コアが主体	
50												

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
<p>●48.88~48.92m: 破砕帯(主せん断面48.88m)</p> <p>48.88m: Hc-2 56°で上下端とも直線的に連続。φ0.5~1m/mの石英粒を20%程度含む半固結状の粘土(ガウジ)。色調は、黒褐色(10YR 3/1)、厚さ1m/m、マンガン鉱染を伴っている。</p> <p>48.88~48.92m: Hb 上端56°、下端53°でいずれも直線的に連続。φ1~3m/m石英粒、φ3~5m/m硬さ「D」岩片を20~30%含む半固結状の「礫質粘土状」呈する。下端部にマンガン鉱染伴う。 色調は灰黄褐(10YR 4/2)~黒褐色(10YR 3/1・下部のみ)、厚さ20m/m</p> <p>48.92~52.42m: CL 概ね長さ5cm前後の短柱状コアが主体</p>

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
			崩壊帯			100	3	0			
			明褐色		CL	100	3	0			
			明褐色		CL	100	5	0			
			明褐色		CL	100	4	0			
			明褐色		CL	100	8	0			
			明褐色		CL	100	14	14			
			明褐色		CL	100	10	10			
			明褐色		CL	100	9	0			
			明褐色		CL	100	11	11			
			明褐色		CL	100	4	0			
			明褐色		D	100	4	0			
			明褐色		D	100	4	0			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
50	<ul style="list-style-type: none"> カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 粒度について、φ0.5~1mmの石英粒を20%程度含むとの記載に基づき、砂混じり粘土と記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 破砕帯区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hb区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。 48.88~48.92mは、48.08~48.12mの誤り。※2
51	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 5D (m)	深度 (m)	境界 位置	地層 名称	色調	細区分				最大 径長	岩 級 区 分	破砕 度 区 分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目 状態	コアの 形状	風化 変質	変質 RQD				
0.5										52	49.00~49.34m 割れ目ぞいに風化・砂状化が進み、コアチューブ引上げ時に乱され、外見は礫状コアを呈している。割れ目ぞいに風化で砂状化するものが主体。密着割れ目も風化でハンマーの打撃で分離し易い。硬さ「C」が主体であるが、風化で軟化した硬さ「D」や逆に堅硬な硬さ「B」も含む。 50.44~50.67m 硬さ「B」で堅硬。上下端は砂状化している。	
5.1											51.15~50.50m 上下位よりも石英斑晶がφ5~15m/mと大型化する(上下位側はφ5m/m前後主体)。	
0.5										53	51.51m以深は風化が進み、割れ目ぞいの砂状化が広がり、φ10~30m/m硬さ「D」岩片を含む「砂礫状」を呈する部分もある。 52.18~52.22mは「細礫混じり粗粒砂」状呈する	
5.2											52.42~52.99m: CM 岩片は硬質であるが一部に密着度の低い割れ目も含んでいる。割れ目は厚さ2~3m/mで砂状化することが多い。	
0.5											52.99~53.00m: CC 割れ目の砂状化進行、割れ目ぞいに割れ目も。	
5.3												

記事内容
49.00~49.34m 割れ目ぞいに風化・砂状化が進み、コアチューブ引上げ時に乱され、外見は礫状コアを呈している。割れ目ぞいに風化で砂状化するものが主体。密着割れ目も風化でハンマーの打撃で分離し易い。硬さ「C」が主体であるが、風化で軟化した硬さ「D」や逆に堅硬な硬さ「B」も含む。 50.44~50.67m 硬さ「B」で堅硬。上下端は砂状化している。
51.15~50.50m 上下位よりも石英斑晶がφ5~15m/mと大型化する(上下位側はφ5m/m前後主体)。
51.51m以深は風化が進み、割れ目ぞいの砂状化が広がり、φ10~30m/m硬さ「D」岩片を含む「砂礫状」を呈する部分もある。
52.18~52.22mは「細礫混じり粗粒砂」状呈する
52.42~52.99m: CM 岩片は硬質であるが一部に密着度の低い割れ目も含んでいる。割れ目は厚さ2~3m/mで砂状化することが多い。

標尺 m	標高 m	深 m	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	記事
				CL			100	8	0			●48.88~49.92m ・破砕部である。カタクリサイトからなる ・黒褐色の砂混じり粘土状~灰褐色~黒褐色の ・黒褐色砂混じり粘土・累計厚1mm ・走向・傾斜はN40° E76° Wである。 ・傾斜は55°である。 ・上層境界の傾斜は56°、下層境界の傾斜は 53°である。
				CL			100	14	14			●51~52.42m ・割れ目ぞいに砂状化しており、一部砂礫状 を呈する。
				CL			100	10	10			●54.72~54.77m ・破砕部である。 ・左ずれセツである。 ・灰褐色の粘土状~明褐色の硬質粘土状を 呈する。 ・灰褐色粘土・累計厚3mm ・走向・傾斜はN67° W79° Wである。 ・傾斜は39°である。 ・上層境界の傾斜は45°、下層境界の傾斜は 39°である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
52	<ul style="list-style-type: none"> 49.00~49.34mの一部割れ目沿いで砂状化し、礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 50.44~50.67mの一部で砂状化しているが、周囲の岩壁に劣化が認められないため削除。 一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
53	<ul style="list-style-type: none"> “岩級区分”欄に基づき、52.42mと記載。 風化の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないことから削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
54	<ul style="list-style-type: none"> 岩級とその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 コアの硬軟については、岩級区分で示しているため削除。 割れ目沿いに砂状を呈するが、連続性や直線性に乏しく、周囲に比べて著しく砂状化していないことから削除。 割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深さ (m)	層名	色	硬さ	割れ目	風化	白濁	その他	岩級区分		備考
								上	下	
52.99										52.99~53.20m: CL 割れ目ぞいに砂状化進む。消滅しかかっている割れ目が多い。
53.20										53.20~53.55m: D 岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。硬さ「D」のφ10m/m程度の岩片が散在している。
53.55										53.55~54.10m: CL 一部で硬さ「C」岩片も含み全体不均質 長石は大半が白濁化する。
54.10										54.10~54.72m: D 風化で砂状化著しい 54.37~54.46mでは硬さ「E」の岩片が残留する。
54.72										54.72~54.77m: 破砕帯(主せん断面、54.77m)
54.77										54.77~54.77m: Hb 上端48°で波打ち、下端39°で直線的に連続。φ2~4m/m石英粒と
54.77										54.77~54.77m: Hc-1 39°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆ど含まない(5%以下) 軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐(7.5YR 5/2)、厚さ3m/m

記事内容
52.99~53.20m: CL 割れ目ぞいに砂状化進む。消滅しかかっている割れ目が多い。
53.20~53.55m: D 岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。硬さ「D」のφ10m/m程度の岩片が散在している。
53.55~54.10m: CL 一部で硬さ「C」岩片も含み全体不均質 長石は大半が白濁化する。
54.10~54.72m: D 風化で砂状化著しい 54.37~54.46mでは硬さ「E」の岩片が残留する。
54.60m以深では粘土化も進む。
54.72~54.77m: 破砕帯(主せん断面、54.77m)
54.77~54.77m: Hb 上端48°で波打ち、下端39°で直線的に連続。φ2~4m/m石英粒と
54.77~54.77m: Hc-1 39°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆ど含まない(5%以下) 軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐(7.5YR 5/2)、厚さ3m/m

深さ (m)	層名	色	硬さ	割れ目	風化	白濁	その他	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
52.99								CL	100	8	0	0	8	0	●48.88~49.92m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。
53.20								CL	100	14	14	0	14	0	・黒褐色の砂質粘土状土質に灰質層~黒褐色の礫質粘土状土質を帯する。
53.55								CL	100	10	10	0	10	0	・黒褐色砂質粘土状土質。累計厚1mm
54.10								CL	100	9	0	0	9	0	・走向・傾斜はN40°E76°Wである。 ・傾斜は55°である。
54.37								CL	100	11	11	0	11	0	・上盤境界の傾斜は56°、下盤境界の傾斜は53°である。
54.46								CL	100	4	0	0	4	0	51.51~52.42m ・割れ目ぞいに砂状化しており、一部砂状化を帯する。
54.72								CL	100	3	0	0	3	0	●54.72~54.77m ・破砕部である。
54.77								CL	100	2	0	0	2	0	・歪むれ七つである。
54.77								CL	100	3	0	0	3	0	・灰褐色の粘土状~明褐色の礫質粘土状を帯する。
54.77								CL	100	9	0	0	9	0	・走向・傾斜はN39°E73°Wである。 ・傾斜は39°である。
54.77								CL	100	3	0	0	3	0	・上盤境界の傾斜は48°、下盤境界の傾斜は39°である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
55	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、「岩級区分」欄で示していることから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・52.99~53.20mで割れ目ぞいに砂状化するが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・54.10~54.72mでは砂状化しているが、掘削時の機械割れによるものと判断し削除。 ・54.60m以深では、粘土化が進んでいるが、劣化に系統性が認められないことから削除。
56~58	<ul style="list-style-type: none"> ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の歪みセンスを記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hb区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深尺 (m)	岩種	色	柱状	細区分				R	Q	D	最大コア長 (cm)	R _{max}	Q _{max}	D _{max}	記事
					硬軟	割れ目	マンガン	鉄								
56.77	55.24															59
56.83	57.00															60
57.00	57.45															61

記事内容
<p>54.77～55.24m: D 全体に粘土化進む 55.00m以浅では岩片やマンガン鉱染部を脈状に含む 55.00m以深では白色粘土化部や赤灰色粘土細脈を多く含む。 55.24～57.70m: CL 硬さ「D」岩片が主体 割れ目ぞいに風化が進み部分では硬さ「E」や締った砂状部も分布する。 割れ目ぞいにマンガン鉱染受け、割れ目面とその周辺は黒褐色化することが多い。 56.83～57.00mでは割れ目ぞいの風化が進み砂状化、残留する硬さDのφ5～10m/m岩片とともに外見上は砂礫状を呈する。 57.00～57.45mは密着度の低い割れ目が密集し、φ10m/m程度に細岩化している。 岩片の硬さは、硬さ「C」と硬質なものも多く含む。 57.45～57.70m 割れ目ぞいに砂状化が進み、全体に上位より軟化が進む。</p>
<p>57.70～57.99m: D 岩組織と割れ目は残留するが、全体に風化による砂状化部が拡大し、締った砂状部が主体である。</p>
<p>57.99～58.28m: CL 岩片は硬いが20～30° 割れ目が10～30m/m間隔で同方向に発達。 マンガン鉱染も伴う。</p>

標尺	深尺	岩種	色	柱状	岩級区分	色	岩級区分	コア採取率 (%)	R	Q	D	最大コア長 (cm)	R _{max}	Q _{max}	D _{max}	記事
					CL			100	3	0						<p>59</p> <p>54.77～55.24m: D 全体に粘土化進む 55.00m以浅では岩片やマンガン鉱染部を脈状に含む 55.00m以深では白色粘土化部や赤灰色粘土細脈を多く含む。 55.24～57.70m: CL 硬さ「D」岩片が主体 割れ目ぞいに風化が進み部分では硬さ「E」や締った砂状部も分布する。 割れ目ぞいにマンガン鉱染受け、割れ目面とその周辺は黒褐色化することが多い。 56.83～57.00mでは割れ目ぞいの風化が進み砂状化、残留する硬さDのφ5～10m/m岩片とともに外見上は砂礫状を呈する。 57.00～57.45mは密着度の低い割れ目が密集し、φ10m/m程度に細岩化している。 岩片の硬さは、硬さ「C」と硬質なものも多く含む。 57.45～57.70m 割れ目ぞいに砂状化が進み、全体に上位より軟化が進む。</p>
					CL			100	2	0					<p>60</p> <p>57.70～57.99m: D 岩組織と割れ目は残留するが、全体に風化による砂状化部が拡大し、締った砂状部が主体である。</p>	
					CL			100	3	0						
					CL			100	9	0						

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
59	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 54.77～55.24mで粘土化が進行しているが、劣化に系統性が認められないことから削除。 マンガン、割れ目沿いの変色、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 55.24～57.70mの一部割れ目沿いで締まった砂状を呈するが、連続性に乏しいことから削除。 56.83～57.00mで砂礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 57.00～57.45mで細片化しているが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。
60	<ul style="list-style-type: none"> 岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 割れ目及び岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
61	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 マンガンについては、補足的なものであるため削除。

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地層 位置	地層 名称	細区分				RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 節理・裂隙性状・層理・スケッチ等
				割れ目 性状	割れ目 性状	割れ目 性状	割れ目 性状					
0.5	58.28			✓	✓	✓	✓		CM		58.28~58.73m: CM マンガン鉱染で割れ目は黒褐色化するが、砂や粘土などの挟在物は分布しない。	
59	58.73			✓	✓	✓	✓		CL		58.73~59.71m: CL 割れ目ぞいに砂状化し、密着度の低い割れ目も多い 全体として脆い 59.35~59.54m間は硬さ「C」主体	
60	59.71			✓	✓	✓	✓		D		59.71~60.00m: D 強風化で締った砂状部主体。φ10m/m前後の岩片が残留し、「砂礫状」を呈する。	

記事内容
58.28~58.73m: CM マンガン鉱染で割れ目は黒褐色化するが、砂や粘土などの挟在物は分布しない。
58.73~59.71m: CL 割れ目ぞいに砂状化し、密着度の低い割れ目も多い 全体として脆い 59.35~59.54m間は硬さ「C」主体
59.71~60.00m: D 強風化で締った砂状部主体。φ10m/m前後の岩片が残留し、「砂礫状」を呈する。

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	最大コア長 (cm)	記事
			CL			100	3	0			58.28~58.73m マンガン鉱染で割れ目は黒褐色化するが、砂や粘土などの挟在物は分布しない。
			CL			100	2	0			58.73~59.71m 割れ目ぞいに砂状化し、密着度の低い割れ目も多い 全体として脆い 59.35~59.54m間は硬さ「C」主体
			CL			100	3	0			59.71~60.00m 強風化で締った砂状部主体。φ10m/m前後の岩片が残留し、「砂礫状」を呈する。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
62	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 マンガン、変色、挟在物の有無、割れ目の密着状況については、補足的なものであるため削除。 硬軟や脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 一部割れ目沿いで砂状化しているが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
63	<ul style="list-style-type: none"> 岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 風化の程度については、岩級区分に含めて示していることから削除。 砂礫状部を構成する岩片の粒径については、補足的なものであるため削除。

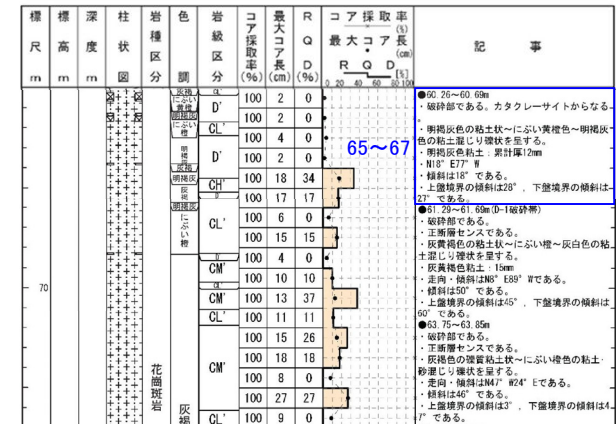
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 60 (m)	深度 (m)	地質名	色調	細区分				備考	破砕区分	基盤岩	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				割れ目の形状	割れ目の長さ	割れ目の密度	割れ目の方向				
	60.00										
	60.12									64	
	60.26									65	
	60.58									66	
	60.69									67	
	61.29									68	

記事内容	
64	60.00～60.26m: CL 50～55° 割れ目が主体 割れ目ぞいにマンガン 鉱染を受ける。
65	●60.26～60.69m: 破砕帯(主せん断面60.58m)
66	60.26～60.58m: Hj 上端は28° で一部消滅しかける不明瞭部からなる直線的な割れ目、下端は18° で波打って連続。φ5～10m/m、硬さ「E」岩片と、岩片間は風化で砂状化が拡大した「礫質砂」状呈する。下端側に主せん断面と同方向の細かい割れ目が発達。色調はにぶい黄橙(10YR 6/4)、厚さ320m/m(コア長)。
67	60.58～60.59m: Hc-1 18° で上下端とも波打って連続。φ1m/m石英粒を約20%含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は明褐灰(5YR 7/2)、厚さ10～12m/m
67	60.59～60.69m: Hj 上端18° で、下端37° 割れ目でいずれも波打って連続。φ5～20m/m硬さ「E」岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなる。色調は明褐灰(7.5YR 7/2)、厚さ100m/m(コア長)。
68	60.69～61.29m: D 大半が風化で砂状化



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
64	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。
65～67	<ul style="list-style-type: none"> カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 表現の見直し(岩片と岩片間の粘土化→粘土混じり礫状) 粘土の累計幅については、最大値を記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 下盤境界の傾斜37° →27° ※1. ※4 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
68	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその深度区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 砂状化しているが、劣化に系統性が認められないことから削除。

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	採掘位置	地質 心	細区分						試料区分	記事内容
				割れ目 形状	割れ目 長さ	割れ目 密度	割れ目 方向	割れ目 色調	割れ目 厚さ		
	61.29								69	●61.29～61.69m:破砕帯(主せん断面61.41m)<D-I> 61.29～61.41m:Hj 上端45°、下端50°でいずれも直線的に連続。主せん断面とほぼ同方向の45°割れ目とこれに斜交する割れ目でφ5～10m/mに岩片化した岩片と、一部の岩片間に分布する幅1m/m以下の軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」呈する。色調はにぶい橙(7.5YR 7/4)、厚さ100m/m	
	61.41								70	61.41～61.43m:Hc-1 50°で上端は直線的に、下端は波打って連続。φ1～2m/m石英粒、φ3m/m岩片を約5%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐(10YR 4/2)、厚さ5～15m/m	
	61.43								71	61.43～61.69m:Hj 上端50°で、下端60°で不明瞭にいずれも波打って連続。硬さ「D」のφ5m/m岩片と、岩片間の斑点状～細脈状(幅1m/m)軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」呈する。上端側は粘土化著しい部分がある。色調はにぶい橙(7.5YR 6/4)～灰白色(10YR 8/2)、厚さ260m/m(コア長)	
	61.69								72	61.69～62.39m:CL 45～60°とこれに斜～直交する割れ目が多いが、62.00m以浅ではこれらが消滅しかかっているものが多い。	
	62.39								73	62.39～63.75m:D 局部的にφ5～20m/m硬さ「D」岩片が残留するが、大半が砂状化している。62.95m以深では粘土化も更に進み、岩組織は大半の部分で消滅する。幅1～2m/m白色軟質粘土脈が粘土化岩片間を縫うように分布する。一部でマンガン鉱染を伴ない薄く黒褐色化する	

記事内容	
69	●61.29～61.69m:破砕帯(主せん断面61.41m)<D-I> 61.29～61.41m:Hj 上端45°、下端50°でいずれも直線的に連続。主せん断面とほぼ同方向の45°割れ目とこれに斜交する割れ目でφ5～10m/mに岩片化した岩片と、一部の岩片間に分布する幅1m/m以下の軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」呈する。色調はにぶい橙(7.5YR 7/4)、厚さ100m/m
70	61.41～61.43m:Hc-1 50°で上端は直線的に、下端は波打って連続。φ1～2m/m石英粒、φ3m/m岩片を約5%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐(10YR 4/2)、厚さ5～15m/m
71	61.43～61.69m:Hj 上端50°で、下端60°で不明瞭にいずれも波打って連続。硬さ「D」のφ5m/m岩片と、岩片間の斑点状～細脈状(幅1m/m)軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」呈する。上端側は粘土化著しい部分がある。色調はにぶい橙(7.5YR 6/4)～灰白色(10YR 8/2)、厚さ260m/m(コア長)
72	61.69～62.39m:CL 45～60°とこれに斜～直交する割れ目が多いが、62.00m以浅ではこれらが消滅しかかっているものが多い。
73	62.39～63.75m:D 局部的にφ5～20m/m硬さ「D」岩片が残留するが、大半が砂状化している。62.95m以深では粘土化も更に進み、岩組織は大半の部分で消滅する。幅1～2m/m白色軟質粘土脈が粘土化岩片間を縫うように分布する。一部でマンガン鉱染を伴ない薄く黒褐色化する



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
69～72	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた、最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) 粘土の累計幅については、最大値を記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。 粘土細脈については、いずれも連続性や直線性に乏しいことから削除。
73	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 割れ目の傾斜、マンガン、変色については、補足的なものであるため削除。 割れ目や岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 62.39～63.75mで砂状化し、一部で粘土を挟んでいるが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	層序 番号	地質 心	細区分							試料 採取 位置	試料 区分	試料 区分	基盤岩コア観察カード 彫刻・破砕性状・組織スケッチ等
				崩れ 性状	コアの 形状	崩れ 性状	崩れ 性状	崩れ 性状	崩れ 性状	崩れ 性状				
19	24.75 63.80 63.85										74		●63.75~63.85m:破砕帯(主せん断面63.80m) ●63.75~63.80m:Hj ●63.80~63.85m:Hb	
05	64.99										75		●63.85~64.49m:D ●64.49~65.18m:CH	
65											76			

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
74 ●63.75~63.85m:破砕帯(主せん断面63.80m) 63.75~63.80m:Hj 上端3°で波打つ割れ目で、下端46°で直線的に連続。φ5~10m/m岩片と岩片間の粘土状~砂状部からなり、「粘土・砂混じり岩片」状呈する。色調はにぶい橙(7.5YR 7/3)、厚さ30~50m/m
75 63.80~63.85m:Hb 上端46°で直線的に、下端47°で波打って連続。φ1~3m/m石英粒、φ5~20m/m硬さ「D」岩片を20~30%含む半固結状の「礫質粘土」状呈する。色調は灰褐(7.5YR 5/2)、厚さ45~55m/m
76 63.85~64.49m:D φ10~20m/m硬さ「C」岩片が多く残留している(残留率30~40%程度)。全体によく締った「砂礫状」を呈する。 粘土部は砂状部中にわずかに散在する程度 64.49~65.18m:CH 坚硬・塊状

申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
74, 75	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた、最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(粘土・砂混じり岩片状→粘土・砂混じり礫状) ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hb及びHj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
76	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 岩片の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分に含めて示しているため削除。 63.85~64.49mで締まった砂礫状を呈するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。

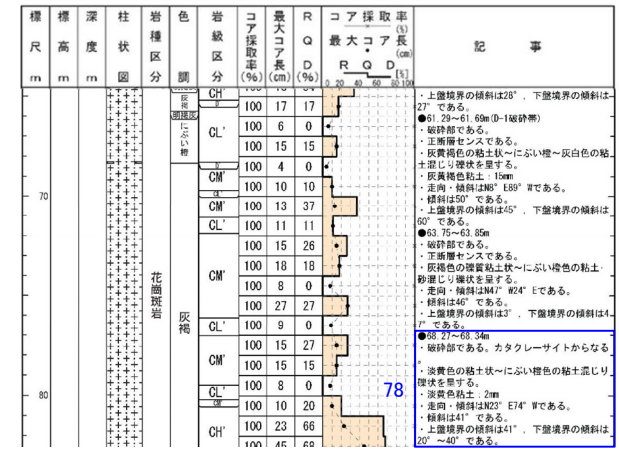
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 65 (m)	深度 (m)	地質名	色調	細区分				RQD	最大コア長	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				割れ目性状	風化	崩壊	その他					
05	64.63	Gp	灰褐色	B	V	C	2	0.6	CL	77	64.63~64.73m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。	
64.73	64.73~64.83m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。											
64.83	64.83~64.93m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。											
64.93	64.93~65.03m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。											
65.03	65.03~65.13m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。											
65.13	65.13~65.23m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。											
65.23	65.23~65.33m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。											
65.33	65.33~65.43m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。											
65.43	65.43~65.53m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。											
65.53	65.53~65.63m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。											
67	66.63	Gp	灰褐色	B	V	C	2	0.6	CL	77	66.63~66.73m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。	
66.73	66.73~66.83m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。											
66.83	66.83~66.93m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。											
66.93	66.93~67.03m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。											
67.03	67.03~67.13m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。											
67.13	67.13~67.23m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。											
67.23	67.23~67.33m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。											
67.33	67.33~67.43m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。											
67.43	67.43~67.53m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。											
67.53	67.53~67.63m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。											
68	68.01	Gp	灰褐色	B	V	C	2	0.6	CL	78	68.01m 以下は割れ目挟在物は殆んど分布しない。	
68.01	68.01~68.11m 以下は割れ目挟在物は殆んど分布しない。											
68.11	68.11~68.21m 以下は割れ目挟在物は殆んど分布しない。											
68.21	68.21~68.31m 以下は割れ目挟在物は殆んど分布しない。											
68.31	68.31~68.41m 以下は割れ目挟在物は殆んど分布しない。											
68.41	68.41~68.51m 以下は割れ目挟在物は殆んど分布しない。											
68.51	68.51~68.61m 以下は割れ目挟在物は殆んど分布しない。											
68.61	68.61~68.71m 以下は割れ目挟在物は殆んど分布しない。											
68.71	68.71~68.81m 以下は割れ目挟在物は殆んど分布しない。											
68.81	68.81~68.91m 以下は割れ目挟在物は殆んど分布しない。											
68.91	68.91~69.01m 以下は割れ目挟在物は殆んど分布しない。											

記事内容
64.63~63.73m 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。
65.18~65.36m: D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し、締った「砂礫状」を呈する 65.36~68.27m: CL 岩片は堅硬であるが割れ目ぞいに砂状化が進むことが多い。 粘土化部や粘土脈は殆んど含まない。 上端側と下端側は短柱状コア主体、中央部は片状コア主体で一部割れ目ぞいに砂状化進む。 65.96~66.01mは砂状化が進んでいる 65.00~65.17m 長柱状コア(コア長17m) 66.20~68.01m 上下位に比べ風化がやや進む。 66.39~66.65m 割れ目ぞいに砂状化進む 66.39~66.44m コアチューブ引上げ時に乱されφ10%前後の岩片状コアを呈する。 66.65~67.00m 硬さ「B」と堅硬な岩片も多く含む 67.00~67.46m 落下コア回収のため2度掘りしている。
67.48~67.63m 長柱状コア(コア長15cm)
67.65~68.01m 硬さ「D」岩片主体で一部割れ目ぞいに砂状化する。
68.01m以下は割れ目挟在物は殆んど分布しない。 ●68.27~68.34m: 破砕帯(主せん断面68.27m) 68.27m: Hc-1 41°で上下端とも直線的に連続。φ1m/m石英粒をごく少量(5%以下)含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y 8/3)、厚さ1~2m/m 68.27~68.34m: Hj 上端41°で直線的に、下端20~40°で湾曲し、一部、灰黄褐(10Y 5/2)幅1~5m/m軟弱粘土脈として連続。主せん断面と同方向の割れ目とこれに直交する割れ目でφ5~10m/mlに細片化した岩片と岩片間の一部が幅1m/ml白~淡黄色軟弱粘土脈からなり「粘土混じり岩片」状を呈する。 色調はふい橙(7.5YR/3)、厚さ65m/m



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
77	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・64.63~64.73mで片状~角礫状、65.36~68.27mの割れ目沿いで砂状を呈するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・65.18~65.36mで締まった砂礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・割れ目の挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
78	<ul style="list-style-type: none"> ・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端面及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・68.27~68.34mは、68.02~68.06mの誤り。※2

H27-B-2

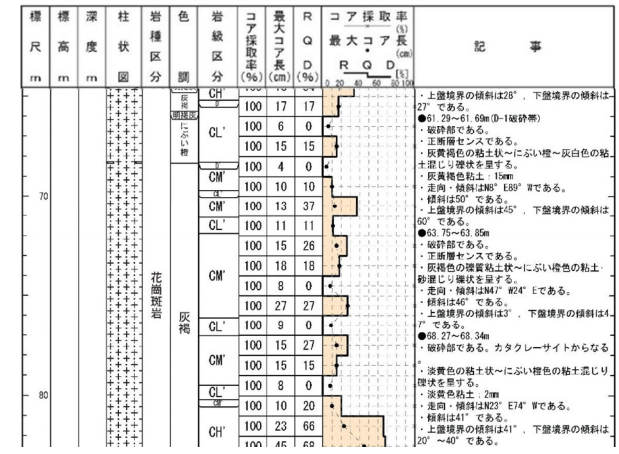
コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

元標 尺 (m)	深 度 (m)	層 序 位置	地質 記号	細区分			RQD	最大 コア 長 (cm)	岩級 区分	観察 時間 区分	観察 位置 区分	基盤岩コア観察カード 観察・観察状況・詳細スケッチ等
				割れ 目 径	割れ 目 数	割れ 目 形状						
68.01	68.01											68.01~02.00mは割れ目径が約10mm程度あり、 68.01~02.00mは割れ目径が約10mm程度あり、 68.01~02.00mは割れ目径が約10mm程度あり、
68.07	68.07											68.07~68.34mは割れ目径が約10mm程度あり、 68.07~68.34mは割れ目径が約10mm程度あり、 68.07~68.34mは割れ目径が約10mm程度あり、
69.00	69.00											69.00~69.69mは割れ目径が約10mm程度あり、 69.00~69.69mは割れ目径が約10mm程度あり、 69.00~69.69mは割れ目径が約10mm程度あり、
69.05	69.05											69.05~69.69mは割れ目径が約10mm程度あり、 69.05~69.69mは割れ目径が約10mm程度あり、 69.05~69.69mは割れ目径が約10mm程度あり、
70.05	70.05											70.05~71.06mは割れ目径が約10mm程度あり、 70.05~71.06mは割れ目径が約10mm程度あり、 70.05~71.06mは割れ目径が約10mm程度あり、

記事内容	
79	68.34~69.69m: CM 堅硬であるが、割れ目がやや多い。一部で長石が白濁化するが少ない。 挟雑物は少ないが、69.30~69.40m間の90°割れ目にごく薄い砂状部を含ま る 68.34~68.38mは軟化著しい
80	69.69~69.95m: CL 69.81~69.95mは割れ目ぞいに砂状化進みφ10~20m/m岩片を含む「砂礫 状」呈する 69.95~71.06m: CM 割れ目には殆んど挟在物は分布しないが、70.66m・57°と70.70m・60°割れ 目に囲まれて片状化する。 前者の割れ目では面ぞいに幅1~2m/m砂状化。φ0.5~1m/mの雲母(セリサ イト)が晶出している。
81	

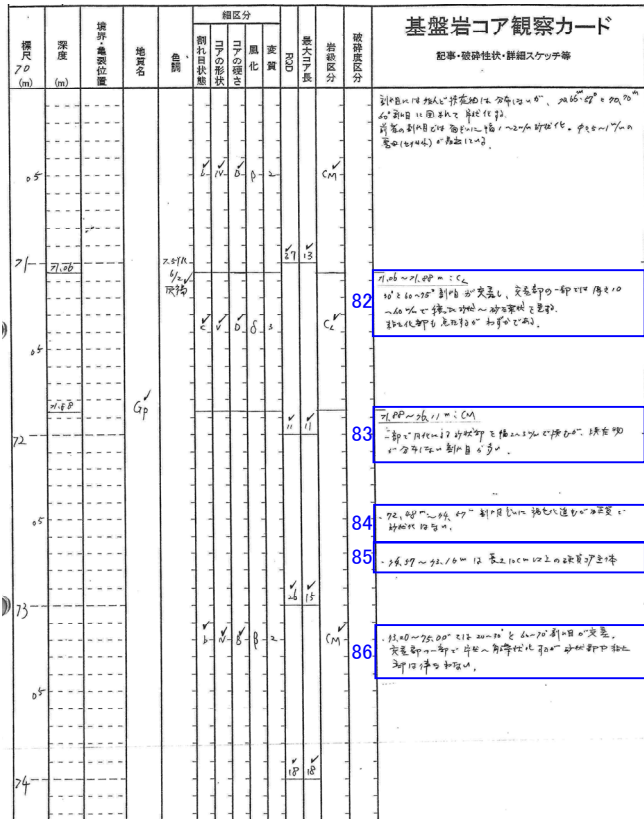


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
79	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・区間上端が軟質化しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。
80, 81	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・一部で砂礫状・片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・割れ目の挟在物の有無、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容

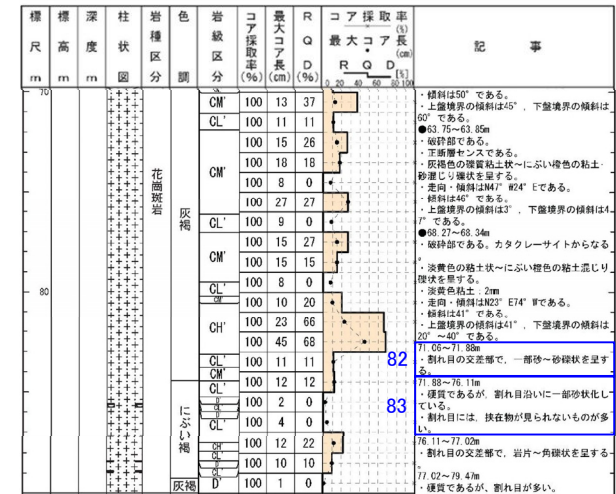
71.06~71.88m: CL
30°と60~75°割れ目が交差し、交差部の一部では厚さ10~60m/mで締った砂状~砂礫状を呈する。粘土化部も点在するがわずかである。

71.88~76.11m: CM
一部で風化による砂状部を幅2~3m/mで挟むが、挟在物が分布しない割れ目が多い。

72.48m~74.57m 割れ目ぞいに褐色化進むが硬質で砂状化はない。

74.57~73.16mは長さ10cm以上の硬質コア主体

73.20~75.00mでは20~30°と60~70°割れ目が交差。交差部の一部で片状~角礫状化するが砂状部や粘土部は伴わない。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
82	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・粘土化部については、いずれも連続性に乏しいことから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。
83	<ul style="list-style-type: none"> ・“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。
84	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。
85	<ul style="list-style-type: none"> ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分に含めて示していることから削除。
86	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の傾斜、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	層位	層名	岩種	色	調	細区分				観察事項
							割れ目	片状	角礫	その他	
74											
75											87
76											88
77											89
78											90

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
87 74.85～75.00m 割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。
88 75.65～75.92mは内部にゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を持たない長さ26cmのコア
89 76.11～77.02m: CL 割れ目が交差しφ10～30m/mの片状～角礫化する。 岩片自身は硬質で劣化はない 一部の割れ目ではφ2～5m/mの細礫状に幅10m/m以下で砕けているが、砂や粘土は伴わない。 全体に長石の白濁化が目立つ。
90 77.02～79.47m: CM 全区間硬質であるが、77.43m～78.00m間では密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの打撃でφ30m/m前後に分離・細片化し易い。 また、同区間では割れ目ぞいにマンガン鉱染を受け割れ目の面の一部は黒褐色化する。

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	層位	層名	岩種	色	調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
80				灰褐色				100	27	27		100	27	走向・傾斜はN47°E24'である。 傾斜は46°である。 上層境界の傾斜は3°、下層境界の傾斜は4°である。 ●88.27～88.34m ・磁律部である。カタクレサイトからなる ・淡黄色の粘土状～にぶい橙色の粘土混じり ・理状を呈する。 ・淡黄色粘土、2mm ・走向・傾斜はN23°E74'である。 ・傾斜は41°である。 ・上層境界の傾斜は41°、下層境界の傾斜は20°～40°である。 77.02～77.08m ・割れ目の交差部で、一部砂～砂礫状を呈する。 77.88～76.11m ・硬質であるが、割れ目沿いに一部砂状化している。 ・割れ目には、挟在物が見られないものが多い。
				にぶい褐色				100	15	27		100	15	89
				灰褐色				100	10	20		100	10	90
								100	23	66		100	45	77.02～79.47m ・傾斜は41°である。 ・上層境界の傾斜は41°、下層境界の傾斜は20°～40°である。 77.02～79.47m ・硬質であるが、割れ目沿いに一部砂状化している。 ・割れ目には、挟在物が見られないものが多い。
								100	11	11		100	12	77.02～79.47m ・硬質であるが、割れ目沿いに一部砂状化している。 ・割れ目には、挟在物が見られないものが多い。
								100	2	0		100	4	77.02～79.47m ・硬質であるが、割れ目沿いに一部砂状化している。 ・割れ目には、挟在物が見られないものが多い。
								100	12	22		100	10	77.02～79.47m ・硬質であるが、割れ目沿いに一部砂状化している。 ・割れ目には、挟在物が見られないものが多い。
								100	10	10		100	10	77.02～79.47m ・硬質であるが、割れ目沿いに一部砂状化している。 ・割れ目には、挟在物が見られないものが多い。
								100	1	0		100	1	77.02～79.47m ・硬質であるが、割れ目が多い。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
87, 88	・マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
89	・岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部割れ目沿いで細礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
90	・“コアの形状”欄に基づき、割れ目が多いと記載。 ・岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態、マンガン、変色については、補足的なものであるため削除。

H27-B-2

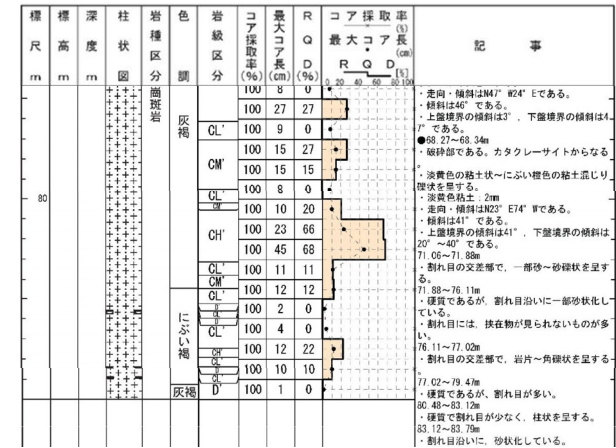
コア観察カード (H27年8月)

元標 尺 (m)	深 度 尺 (m)	柱 状 分 類	色 調	岩 種 区 分	岩 級 区 分	細区分				試 験 区 分	試 験 区 分	試 験 区 分	基盤岩コア観察カード		
						割れ目 の 状態	割れ目 の 状態	割れ目 の 状態	割れ目 の 状態				観察 事項	観察 事項	
77.8	77.8													91	<p>一部は黒褐色化部。</p> <p>77.21m 交差する2本の割れ目の一部で、幅2~3m/m砂状化するが、砂状部は割れ目全体に連続しない。</p> <p>78m以深は長10cm前後のコアが主体となるが、一部では密着度の低い割れ目をもつものもある。</p> <p>78.40m 割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。</p>
79.0	79.0													92	<p>79m以深では長石斑晶の白濁化が多い。</p> <p>79.10m 40° 割れ目ぞい幅10~15m/mが淡緑色化し、面ぞいにφ0.5m/m以下の微細な雲母(セリサイト)が晶出する。</p>
79.47	79.47													93	<p>79.47m 岩質: CL</p> <p>30~50° と70° 割れ目が交差、交差部の一部でφ10m/m程度に細片状化。</p> <p>70° 割れ目の一部に幅2~3m/mの淡黄~褐色粘土脈はさむ。</p> <p>79.83~79.90m 割れ目ぞいに砂状~φ2~5m/m細片状化進む。少量の粘土も伴う。</p>

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
<p>77.21m 交差する2本の割れ目の一部で、幅2~3m/m砂状化するが、砂状部は割れ目全体に連続しない。</p> <p>78m以深は長10cm前後のコアが主体となるが、一部では密着度の低い割れ目をもつものもある。</p> <p>78.40m 割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。</p>
<p>79m以深では長石斑晶の白濁化が多い。</p> <p>79.10m 40° 割れ目ぞい幅10~15m/mが淡緑色化し、面ぞいにφ0.5m/m以下の微細な雲母(セリサイト)が晶出する。</p>
<p>79.47~80.19m: CL</p> <p>30~50° と70° 割れ目が交差、交差部の一部でφ10m/m程度に細片状化。</p> <p>70° 割れ目の一部に幅2~3m/mの淡黄~褐色粘土脈はさむ。</p> <p>79.83~79.90m 割れ目ぞいに砂状~φ2~5m/m細片状化進む。少量の粘土も伴う。</p>

申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
91	<ul style="list-style-type: none"> 77.21mで砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 割れ目の密着状態、マンガン、割れ目の変色、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
92	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄に示していることから削除。 一部割れ目沿いで細片状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 一部に粘土を挟在するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。
93	<ul style="list-style-type: none"> 一部割れ目沿いで砂状化し、粘土を伴うが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-2

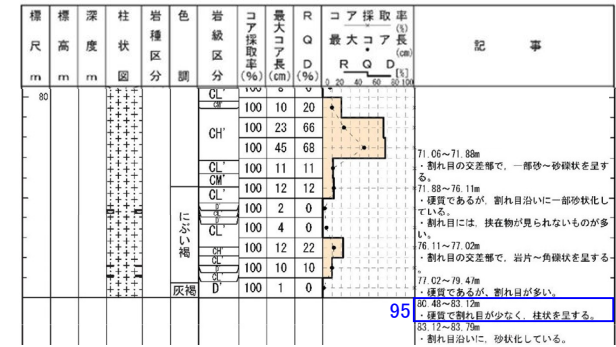
コア観察カード (H27年8月)

標尺の 寸法 (m)	深度 (m)	標準 貫入 試験 値	地質 記号	細区分				岩級区分	硬さ区分	基盤岩コア観察カード 記事・硬さ・性状・詳細スケッチ等
				割れ目 性状	風化 性状	色調	鉱物 性状			
0.0	0.0								94 80.19~80.48m: CM 一部に密着度の低い割れ目と含んでいる 割れ目挟在物と含有している。	
0.5	0.5								95 80.48~83.12m: CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物 は分布しない。 ゆ着割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布 をする程度。 全体にφ2~3m/m暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。 長石の白濁化は殆んど認められない。	
1.0	1.0								96 81.10~81.35m φ2~5m/mの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色色調おびる。 劣化は伴わない。	
1.5	1.5								96 82.10~82.30m 珪化変質によりφ5~10m/m斑点状~幅10m/m脈状の石英 が晶出し上下位よりも更に硬質となっている。	
2.0	2.0								96 82.72~82.86m コア中に密着度の低い割れ目を含む	

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
94 80.19~80.48m: CM 一部のコアに密着度の低い割れ目を含んでいる 割れ目挟在物は分布しない。
95 80.48~83.12m: CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。 ゆ着割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布をする程度。 全体にφ2~3m/m暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。 長石の白濁化は殆んど認められない。
96 81.10~81.35m φ2~5m/mの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色色調おびる。 劣化は伴わない。
96 82.10~82.30m 珪化変質によりφ5~10m/m斑点状~幅10m/m脈状の石英 が晶出し上下位よりも更に硬質となっている。
96 82.72~82.86m コア中に密着度の低い割れ目を含む

申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
94	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態や挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
95	<ul style="list-style-type: none"> ・“コアの硬さ”欄や“コアの形状”欄に基づき、硬質、柱状と記載。 ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・挟在物の有無、割れ目の密着状態、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
96	<ul style="list-style-type: none"> ・マンガン、色調、鉱物の晶出、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

H27-B-2

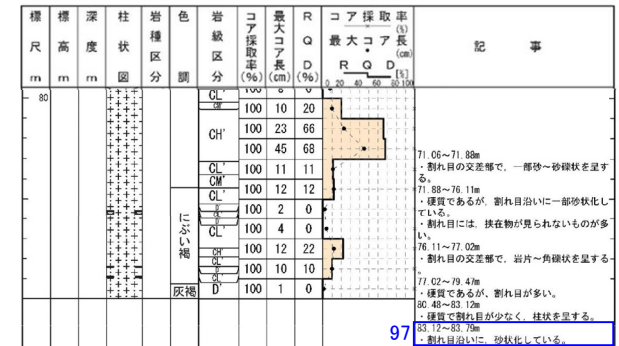
コア観察カード (H27年8月)

標高 (m)	深度 (m)	緯度 (度)	経度 (度)	方位	細区分				RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	記事
					割れ目 傾斜	割れ目 密度	割れ目 長さ	割れ目 形状				
83.12	0.00								100	CL	97	
83.46	0.34								100	CL	98	
83.79	0.67								100	CM	99	
84.35	1.31								100	CL	100	
84.61	1.65								100	D	101	

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
83.12~83.79m: CL 83.46m以浅は20~50° 割れ目が多く、割れ目ぞいに砂状化が進む。マンガン 鉱染も伴う。岩片自身も硬さ「D」に軟化する
83.46m以深は割れ目は多いが硬質で挟在物も殆んど分布しない。
83.79~84.43m: CM 堅硬。
84.35~84.38mで10~15° 割れ目ぞい、ごく薄く風化、砂状化する以外は割れ 目挟在物は分布しない。
一部にゆ着割れ目が分布するが密着度高く、ハンマー打撃でも分離しない。
84.43~84.61m: CL 硬さ「C」岩片主体、多くの割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化、粘土化なし
84.61~85.50m: CL 硬さ「D」岩片主体 一部で割れ目ぞいに風化、砂状化が進む部分もある。 長石の白濁化が目立つ。

申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
97	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。
98	<ul style="list-style-type: none"> ・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
99	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・84.35~84.38mで割れ目沿いに砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の傾斜、割れ目の密着状態、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
100	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
101	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化するが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

Table with columns for core depth (m), lithology, and other geological data. Includes a title '基盤岩コア観察カード' and various handwritten notes.

記事内容 (Article Content) table with columns for depth ranges and detailed descriptions of core samples, including lithology and observations.

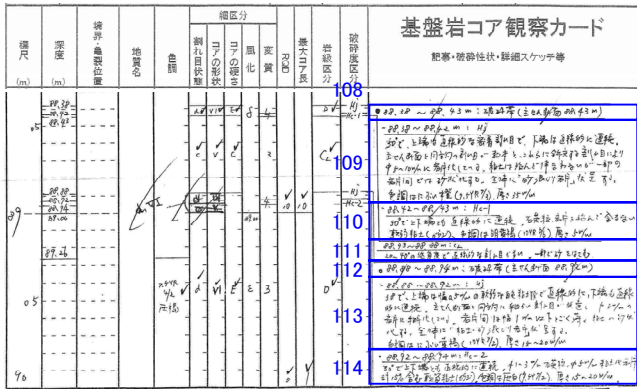
申請書用柱状図 (Application Form Columnar Diagram) table with columns for core depth, lithology, and other parameters. Includes a title '申請書用柱状図' and various handwritten notes.

Table with columns for '記事' (Article) and 'コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図' (Core Observation Card (Aug 2027) ⇒ Application Form Columnar Diagram). Contains detailed notes and observations for each core depth range.

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容	
108	●88.38～88.43m: 破砕帯(主せん断面88.43m) 88.38～88.42m: Hj 50°で、上端は直線的な密着割れ目で、下端は直線的に連続。 主せん断面と同方向の割れ目が数本と、これらに斜交する割れ目によりφ5～10 m/mに岩片化している。粘土は殆んど伴わないが一部の岩片間では砂状化する。全体に「砂混じり岩片」状呈する。 色調はにぶい橙(7.5YR7/3)厚さ35 m/m
109	88.42～88.43m: Hc-1 50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない軟弱粘土(ガウジ)、色調は明黄褐(10 YR6/6)、厚さ5 m/m
110	88.43～88.88m: CL 20°～40°の低角度で直線的な割れ目が多い。一部で砂をはさむ。
111	●88.88～88.94m: 破砕帯(主せん断面88.92m) 88.88～88.92m: Hj 30°で、上端は幅0.5m/mの軟弱な白色粘土脈で直線的に、下端も直線的に連続。主せん断面と同方向に細かい割れ目が発達しφ5m/mの岩片に細片化している。岩片間は幅1m/m以下とごく薄粘土～砂状化する。全体に「粘土・砂混じり岩片」状呈する。 色調はにぶい黄褐(10YR7/2)、厚さ15～20m/m
112	88.92～88.94m: Hc-2 30°で、上下端とも直線的に連続、φ1～3 m/m石英粒、φ5m/m粘土化岩片計15%含む軟質粘土(ガウジ)、色調は灰白(7.5Y7/2)、厚さ15～20 m/m
113	
114	

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長D(cm)	R	コア採取率(%)	最大コア長D(cm)	記事
m	m	m	図				(%)	(cm)	(%)	(%)	(cm)	
						CL	100	12	12			●88.58～88.76m ・破砕部である。カタレーサイトからなる。 ・淡黄色の硬質粘土～灰黄～淡黄～にぶい橙色の粘土・砂混じり礫状を呈する。 ・淡黄色硬質粘土・厚さ計5mm ・走向・傾斜はN15° E52°である。 ・傾斜は40°である。 ・上層境界の傾斜は40°、下層境界の傾斜は32°である。
						CL	100	2	0			
						CL	100	4	0			
						CL	100	12	22			
						CL	100	10	10			●88.38～88.43m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・明黄褐色の粘土状～にぶい橙色の砂混じり礫状を呈する。 ・明黄褐色粘土・厚さ計5mm ・走向・傾斜はN26° E84° Eである。 ・傾斜は30°である。 ・上層境界の傾斜は50°、下層境界の傾斜は30°である。
						D	100	1	0			
												●88.88～88.94m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・灰白色の硬質粘土状～にぶい黄褐色の粘土・砂混じり礫状を呈する。 ・灰白色硬質粘土・厚さ計20mm ・走向・傾斜はN35° E72° Eである。 ・傾斜は30°である。 ・上層境界の傾斜は30°、下層境界の傾斜は30°である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
108～110	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(砂混じり岩片状→砂混じり礫状) ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
111	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、「岩級区分」欄で示していることから削除。 割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 一部で砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
112～114	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(粘土・砂混じり岩片状→粘土・砂混じり礫状) φ1～3mm石英粒、φ5mm粘土化岩片計15%含むとの記載に基づき、礫混じり粘土状と記載。 粘土の累計幅については、最大値を記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

掘削 深さ 90 (m)	深 度 (m)	境界 位置 深度	地層 名	細区分				最大 径 (mm)	岩 質	破 砕 度	基 盤 岩 コ ア 観 察 カ ー ド
				割 れ 目 の 傾 斜	割 れ 目 の 幅	割 れ 目 の 深 さ	割 れ 目 の 深 さ				
90.5	90.5									115	
91.0	91.0									116	
92.0	92.0									117	
92.5	92.5									118	
93.0	93.0									119	

記事内容
88.94~91.69m:D 割れ目ぞいに風化が進み、砂状化部が拡大している。90.81m以浅はφ5~20m/mの硬さ「C」「D」岩片が残留し、固結砂状部を基質とする「砂礫状」を呈する。岩組織はほぼ消滅している。90.81m以深は硬さ「D」岩片主体で岩組織と割れ目の大半は残留し、割れ目の一部は残留し40~60°が主体。 90.50m 60°、厚2~3m/mの石英脈が分布 90.47m以浅では残留岩片の割れ目や砂状基質部の一部がマンガン鉱染受け、黒褐色化する。 91.04mと91.20m 割れ目に厚さ1m/mの軟質な灰白色粘土が脈状に分布、前者ではマンガンと後者では砂を伴っている。 91.60m以深ではφ3m/m長石斑品が多くなる。このうち、主せん断面近傍では長石が主せん断面方向に配列する。
●91.69~91.76m:破砕帯(主せん断面91.70m)
91.69~91.70m:Hc-1 51°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ0.5m/mと微小な石英粒を約5%含む軟弱粘土(ガウジ)、色調は明褐灰(7.5YR7/2)~灰褐(7.5YR5/2)で縞状を呈する。 上端側の一部に白色粘土脈とマンガン鉱染伴う。 厚さ3~8m/m
91.70~91.72m:Hb 上端51°で直線的に、下端53°で波打って連続、φ1~3m/m石英粒、φ5m/m前後の硬さ「D」岩片を約20%含む軟質な「礫質粘土」状を呈する。色調は灰白(7.5YR8/1)、厚さ7~12m/m
91.72~91.76m:Hj 上端53°で波打って、下端45°で直線的に連続。主せん断面と同方向~20°斜交の細かい割れ目が多く、φ5~10m/mに岩片化している。岩片間に主せん断面と同方向の幅0.5~1m/m軟弱な白色粘土脈が分布する。全体として「粘土混じり岩片」状呈する。色調はにぶい褐(7.5YR 5/3)、厚さ30~40m/m
91.76~94.80m:CL 密着度がきわめて低い割れ目を多く含み、ハンマーの軽打でφ10~30m/mの小岩片に分離・細片化する。

掘削 深さ 90 (m)	深 度 (m)	境界 位置 深度	地層 名	色 調	割 れ 目 の 傾 斜	割 れ 目 の 幅	割 れ 目 の 深 さ	割 れ 目 の 深 さ	最大 径 (mm)	岩 質	破 砕 度	基 盤 岩 コ ア 観 察 カ ー ド	記事
90.5	90.5											115	●91.69~91.76m ・破砕帯である。 ・右ずれセンスである。 ・傾斜は51°である。 ・上端境界の傾斜は51°、下端境界の傾斜は45°である。 ・94.80~97.96m ・硬質で割れ目が少なく、粒状を呈する。
91.0	91.0											116	
92.0	92.0											117	
92.5	92.5											118	
93.0	93.0											119	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
115	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・88.94~90.81mでは砂礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・割れ目の傾斜、鉱物脈、マンガン、割れ目の変色については、補足的なものであるため削除。 ・90.81~91.69mの一部割れ目に砂や粘土を挟むするが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
116~118	<ul style="list-style-type: none"> ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・縞状模様については、色調で示していることから削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
119	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。

H27-B-2

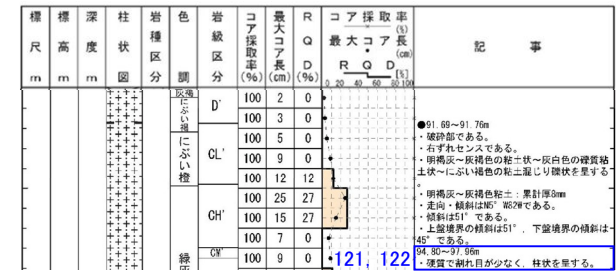
コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深さ (m)	深さ (m)	層位番号	地層	地層	細区分		岩種	色調	硬さ	割れ目	マンガン	夾在物	備考
					細区分	細区分							
91.76													91.76～93.00mの範囲は、一部に割れ目が多いが、割れ目の密度が低く、マンガンも少ない。この範囲は、割れ目の密度が低く、マンガンも少ない。この範囲は、割れ目の密度が低く、マンガンも少ない。
91.76													91.76～93.00mの一部は、割れ目が多いが、割れ目の密度が低く、マンガンも少ない。この範囲は、割れ目の密度が低く、マンガンも少ない。この範囲は、割れ目の密度が低く、マンガンも少ない。
92.18													92.18m～70°～92.24m・44°間は、φ5～10m/mの岩片状に砕け、各割れ目面にマンガンが付着する。
92.65													92.65m 55°割れ目には幅2m/mマンガンを脈状にはさむ。
93.81													93.81～94.13m 硬さ「B」で割れ目挟在物は分布しない。
94.26													94.26～94.38m φ5～10m/mの大型石英斑晶が点在が、一部は35～50°割れ目で切断されている。
94.80													94.80～97.96m: CH 全体が緑灰化する。
													概ね新鮮であるが、一部の割れ目ぞいに風化による褐色化が進む部分もある。挟在物をささない割れ目が主体であるが、処々に割れ目挟在物が認められる。

記事内容
93.00m以浅はコア長3～5cm主体の短柱コア、93.00m以深はゆ着割れ目も含め、割れ目が密集し、コア長1～2cmの片状コアが主体。また、長石の大半は白濁化し、割れ目ぞいに砂状化することがある。マンガンをはさむが、粘土脈は殆んど分布しない。
92.09mのφ10m/m緑泥石が30°割れ目で切断されるが変位はない。
92.18m・70°～92.24m・44°間はφ5～10m/mの岩片状に砕け、各割れ目面にマンガンが付着する。
92.65m 55°割れ目には幅2m/mマンガンを脈状にはさむ。
93.81～94.13m 硬さ「B」で割れ目挟在物は分布しない。
94.26～94.38m φ5～10m/mの大型石英斑晶が点在が、一部は35～50°割れ目で切断されている。
94.80～97.96m: CH 全体が緑灰化する。
概ね新鮮であるが、一部の割れ目ぞいに風化による褐色化が進む部分もある。挟在物をささない割れ目が主体であるが、処々に割れ目挟在物が認められる。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
120	<ul style="list-style-type: none"> ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態、マンガン、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・91.76～93.00mの一部割れ目沿いで砂状化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・緑泥石が切断される、石英斑晶が切断されるとの記載については、変位が認められず、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・92.18～92.24mで岩片状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
121, 122	<ul style="list-style-type: none"> ・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質、柱状と記載。 ・岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・色調、割れ目沿いの変色、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

凡例	層別	層位	心部注	詳細	細区分	基盤岩コア観察カード 観察・観察性状・詳細スケッチ等	
(m)	(m)	(m)			軟弱部	硬部	
05							95.46m 55° 割れ目ぞい幅10~15m/mが褐色化し、硬さ「D」に軟化。上盤側に幅7m/m方解石を脈状に伴うが、同脈は途中で尖滅している。 95.90~96.00m 割れ目が10~20m/m間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ「D」に軟化するが砂状部は分布しない。
96							96.60~96.63m 割れ目ぞい幅10m/m程度が淡褐色化し、幅1~2m/m砂状部をばさむ
05							97.36m 35° 割れ目に淡緑色シルト~細砂脈はさむ。 その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布。
97							97.96~98.48m: CM 岩片は硬いが、割れ目ぞいの砂状化も認められる 粘土土部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い
05							98.48~101.31m: CL 割れ目ぞいの砂状化部が多くなる。 粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する 99.44m以下は岩片は硬質、以深は風化で軟化している
98							99.16~99.45m 長さ10cm前後の柱状コアが中石的に分布する。 99.44~99.90mは割れ目ぞいに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟化する。 特に99.76m~99.90mでは40° 割れ目ぞい砂状化が進み岩片も一部硬さ「D」まで低下
05							
99							
05							
100							

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
<p>95.46m 55° 割れ目ぞい幅10~15m/mが褐色化し、硬さ「D」に軟化。上盤側に幅7m/m方解石を脈状に伴うが、同脈は途中で尖滅している。 95.90~96.00m 割れ目が10~20m/m間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ「D」に軟化するが砂状部は分布しない。</p> <p>96.60~96.63m 割れ目ぞい幅10m/m程度が淡褐色化し、幅1~2m/m砂状部をばさむ</p> <p>97.36m 35° 割れ目に淡緑色シルト~細砂脈はさむ。 その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布。</p> <p>97.96~98.48m: CM 岩片は硬いが、割れ目ぞいの砂状化も認められる 粘土土部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い</p>
<p>98.48~101.31m: CL 割れ目ぞいの砂状化部が多くなる。 粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する 99.44m以下は岩片は硬質、以深は風化で軟化している</p> <p>99.16~99.45m 長さ10cm前後の柱状コアが中石的に分布する。 99.44~99.90mは割れ目ぞいに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟化する。 特に99.76m~99.90mでは40° 割れ目ぞい砂状化が進み岩片も一部硬さ「D」まで低下</p>

申請書用柱状図

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R D (%)	最大コア長 R Q D (cm)	記事
100		25	27	CH				100	25	27		・明褐色~淡褐色粘土: 累計厚8mm ・走向・傾斜は概ねN70°Eである。 ・傾斜は51°である。 ・上盤境界の傾斜は51°、下盤境界の傾斜は45°である。 94.40~97.36m ・ bedding 割れ目が少なく、柱状を思わせる。 98.48~101.31m ・割れ目沿いに、砂状化している。 ・長石は概ね白濁化している。
		100	15					100	7	0		
		100	9	CH				100	9	0		
		100	11					100	11	11		
		100	4	CL				100	4	0		
		100	27					100	27	27		

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
123	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の傾斜・変色、鉱物脈、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 一部割れ目沿いに砂状化、シルトや砂の挟在がみられるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 岩級及びその区間については、「岩級区分」欄で示しているため削除。 長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
124	<ul style="list-style-type: none"> 岩級については、「岩級区分」欄で示しているため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
125	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 一部割れ目沿いに砂状化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標高 10.0 (m)	深度 (m)	採取 層位 番号	地質 名	色・ 調	細区分				割れ目 の状況	RQD	最大 コア長 (cm)	岩級区分	破砕 度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕状況・詳細スケッチ等
					C	B	A	その他						
05	101.82												126	100.52~101.32m 割れ目ぞいの風化、砂状化が進む。岩片の硬さも軟化し、硬さ「C」主体で部分的に硬さ「B」が残留。長石は白濁化する。 100.84~100.89m、101.23~101.32m間は割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ5~10m/m岩片と共に「砂礫状」呈する。
05	101.32												127	101.32~102.05m: CM ほぼ未風化で、挟雑物も分布しない。 一部に密着度の低い割れ目も分布している。
05	102.05												128	102.05~104.65m: CL 103.70m以浅では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布、103.70m以深では硬さ「D」と軟化が進んでいる。 102.05~102.41m 約10m/m間隔で細かく密着度の低いゆる割れ目が多い。 102.41~102.94m 硬さ「B」岩片主体。割れ目ぞいに1~3m/m程度と薄く砂状化する。粘土化部は分布しない。

記事内容
100.52~101.32m 割れ目ぞいの風化、砂状化が進む。岩片の硬さも軟化し、硬さ「C」主体で部分的に硬さ「B」が残留。長石は白濁化する。 100.84~100.89m、101.23~101.32m間は割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ5~10m/m岩片と共に「砂礫状」呈する。
101.32~102.05m: CM ほぼ未風化で、挟雑物も分布しない。 一部に密着度の低い割れ目も分布している。
102.05~104.65m: CL 103.70m以浅では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布、103.70m以深では硬さ「D」と軟化が進んでいる。 102.05~102.41m 約10m/m間隔で細かく密着度の低いゆる割れ目が多い。 102.41~102.94m 硬さ「B」岩片主体。割れ目ぞいに1~3m/m程度と薄く砂状化する。粘土化部は分布しない。

標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	最大 コア長 (cm)	記事
100			花崗斑岩		CL	100	11	11		100.48~101.31m ・割れ目ぞいに、砂状化している。 ・長石は概ね白濁化している。
					CM	100	6	0		102.94~103.17m ・割れ目ぞいに、砂状化している。
					CL	100	4	0		
					CL	100	6	0		
					CM	100	5	0		104.65~115.99m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。
					CM	100	14	24		
						100	17	17		

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
126	<ul style="list-style-type: none"> 一部割れ目ぞいに砂状化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 100.84~100.89m、101.23~101.32mで砂礫状を呈するが、いずれも連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
127	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 挟在物の有無、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
128	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 割れ目ぞいに砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

H27-B-2

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層別	深度 (m)	地質	地質	細区分				備考
				割れ目形状	割れ目径	割れ目深	割れ目長	
103	102.94							
	103.17							
	103.70							
	104.65							
104	104.65							
	104.14							
	104.19							
105	105.00							

記事内容
129 102.94~103.17m 20~30° 割れ目ぞいに風化・砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」と軟化する。
130 103.17~103.70m 割れ目ぞいの砂状化や挟在物の分布は認められないが、一部で密着度の低い「ゆる割れ目」が多い。
131 103.70~104.65m 風化が進み岩片も含め全体が軟化している。処々に幅1~2m/m軟質な白色粘土を脈状に含んでいる。
132 104.65~107.15m:CM 104.14~104.19m間を除き、硬質で挟在物は殆んど分布しない。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
100				花崗斑岩	灰褐	CL	100	11	11			102.94~103.17m ・割れ目ぞいに、砂状化している。 ・長石は概ね白濁化している。
						CM	100	4	0			
						CL	100	6	0			129
						CL	100	4	0			102.94~103.17m ・割れ目ぞいに、砂状化している。
						CM	100	6	0			104.65~116.99m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。
						CM	100	5	0			
						CM	100	14	24			C
						CM	100	17	17			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
129	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
130	・割れ目の挟在物の有無、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
131	・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部に粘土を挟在するが、系統的でなく、連続性や直線性に乏しいことから削除。
C	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質、岩片~短柱状と記載。
132	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地質 記号	地層 名	細区分				RQD	最大コア長 (cm)	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性・詳細スケッチ等
				割れ目 状態	風化 程度	変質	異状				
0.5										104.14~104.19m 上下端とも40°割れ目に囲まれて締った砂状~φ2~3m/細片化する。下端面に白色粘土のフィルムが付着。区間内全体にφ0.5m以下と微細な黄鉄鉱が点在する。	
1.0									133	105.70~105.83m 割れ目が交差し、φ20~30m/mに岩片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほど未風化な面である。	
1.5									134	106.21~106.81m 仰着割れ目が多いが密着度は高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。密着度の低いものは既に開口割れ目化している。	
2.0									135	107.68~107.73m 割れ目が交差し、φ10~20m/mに岩状化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほど未風化な面である。	
2.5									136	107.15~107.62m: CL 割れ目ぞいにφ3~5m/mと細片化する部分もあるが、砂状~粘土状挟在物は分布せず、ほど未風化な面である。面の一部は淡緑色化する。これは緑泥石化変質で粘土化は伴わない。	
3.0									135	107.60~115.99m: CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。 110.10m~114.06m間は幅10~30m/m間隔程度の密着度の低い「仰着割れ目」も含んでいる。 ほど未風化で、割れ目挟在物も殆んど分布しない。	
3.5									136	108.57~108.60m 40°割れ目ぞいに幅1m/m程度砂状化する。上端面には暗緑色砂がフィルム状に付着。微細な黄鉄鉱を伴っている。	

記事内容
104.14~104.19m 上下端とも40°割れ目に囲まれて締った砂状~φ2~3m/細片化する。下端面に白色粘土のフィルムが付着。区間内全体にφ0.5m以下と微細な黄鉄鉱が点在する。
105.70~105.83m 割れ目が交差し、φ20~30m/mに岩片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほど未風化な面である。
106.21~106.81m 仰着割れ目が多いが密着度は高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。密着度の低いものは既に開口割れ目化している。
107.68~107.73m 割れ目が交差し、φ10~20m/mに岩状化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほど未風化な面である。
107.15~107.62m: CL 割れ目ぞいにφ3~5m/mと細片化する部分もあるが、砂状~粘土状挟在物は分布せず、ほど未風化な面である。面の一部は淡緑色化する。これは緑泥石化変質で粘土化は伴わない。
107.60~115.99m: CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。 110.10m~114.06m間は幅10~30m/m間隔程度の密着度の低い「仰着割れ目」も含んでいる。 ほど未風化で、割れ目挟在物も殆んど分布しない。
108.57~108.60m 40°割れ目ぞいに幅1m/m程度砂状化する。上端面には暗緑色砂がフィルム状に付着。微細な黄鉄鉱を伴っている。

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
110			凝斑岩		CM	100	14	24			104.65~115.99m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。		
						100	17	17			107.15~107.62m ・割れ目ぞいに一部細片化している。		
						100	14	14			134		
						100	6	0			135		
						100	5	0			136		
						100	9	0					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
133	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。 104.14~104.19mで締まった砂状を呈し、粘土を挟在するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 105.70~105.83m, 107.68~107.73mで岩片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
134	<ul style="list-style-type: none"> 岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 割れ目の挟在物の有無、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
135	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 硬軟や割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示していることから削除。 割れ目の密着状態や挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
136	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の傾斜、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。

H27-B-2

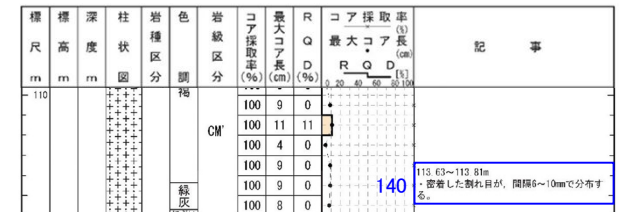
コア観察カード (H27年8月)

標尺 110 (m)	深度 (m)	境界 番号 記号	地質名	色 調	細区分					R Q (%)	備考	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目性状	片状化	風化	実質	腐食			
	0.5											137 110.40~110.51m 白色化した「ゆ着割れ目」ぞいに分離し、開口割れ目化している。
	1.0											
	0.5											138 111.37m 75~80° 割れ目ぞいの一部で幅1~2m/m砂状化 これに交差する30° 割れ目は切られている。
	1.2		Op									
	0.5											139 112.41~112.44m 5° 前後の割れ目ぞいに片状化、岩片は軟化しない
	1.5											
	0.5											140 113.63~113.81m 白色の「ゆ着割れ目」が5~10m/m間隔で細かく分布、密着度の低いものも含まれる。
	1.8											
	0.5											141 114.37~115.70m 緑色系色調に変化する。 114.65m 80~85° 割れ目の一部に鏡肌と厚さ0.5m/m以下の暗緑色粘土がフィルム状に付着
	115											

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
137 110.40~110.51m 白色化した「ゆ着割れ目」ぞいに分離し、開口割れ目化している。
138 111.37m 75~80° 割れ目ぞいの一部で幅1~2m/m砂状化 これに交差する30° 割れ目は切られている。
139 112.41~112.44m 5° 前後の割れ目ぞいに片状化、岩片は軟化しない
140 113.63~113.81m 白色の「ゆ着割れ目」が5~10m/m間隔で細かく分布、密着度の低いものも含まれる。
141 114.37~115.70m 緑色系色調に変化する。 114.65m 80~85° 割れ目の一部に鏡肌と厚さ0.5m/m以下の暗緑色粘土がフィルム状に付着

申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
137	・割れ目沿いに開口しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。
138	・割れ目沿いに砂状化し、割れ目は切られているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
139	・割れ目沿いに細片化しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
140	・変更なし
141	・色調については、補足的なものであるため削除。 ・114.65mで鏡肌を伴い、粘土を挟入するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 地質名	地質名	細区分				最大コア長 (cm)	RQD	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				割れ目の 状況	変色	風化	崩壊					
11.5	0.5		緑泥質 砂岩	+	+	+	+	+	+	+	142 115.33~115.70m 暗緑色鉱物(緑泥石)がφ1~2m/m斑点状~幅1m/m脈状で分布する。特に前者で分布が多い。 115.70m以深で橙色の正長石が多く晶出、全体の色調が橙色に変化。	
11.6	0.5		緑泥質 砂岩	+	+	+	+	+	+	+	143 115.99~116.49m: CL 割れ目が細かく分布し、φ10~30m/m主体に岩片化している。 144 116.18~116.37mでは石英の晶出が多く、全体が珪質となる。	
11.7	0.5		緑泥質 砂岩	+	+	+	+	+	+	+	145 116.49~119.47: CM 挟雑物のない割れ目が多いが、一部で幅1~2m/mで砂状化部や粘土部をはさむ割れ目も分布する。 また、割れ目交差部の一部ではφ5~10m/m程度に細片状化する部分もある。 146 117.21m 70° 割れ目に幅2m/mで硬質な暗緑色鉱物脈(緑泥石)が断続的に分布する。その上盤側約10m/mは弱く風化し淡褐色化するが劣化は伴わない。	
11.8	0.5		緑泥質 砂岩	+	+	+	+	+	+	+	147 118.12~119.10m 30° 前後と70~80° 割れ目が交差し、その一部ではφ5~10m/m程度で片状化している。砂状化や粘土化は伴わない。 118.23~118.53m 20~30° の「ゆ着割れ目」が10~20m/m間隔で同方向に分布。一部では密着度が低く既に開口割れ目化している。	

記事内容
115.33~115.70m 暗緑色鉱物(緑泥石)がφ1~2m/m斑点状~幅1m/m脈状で分布する。特に前者で分布が多い。 115.70m以深で橙色の正長石が多く晶出、全体の色調が橙色に変化。
115.99~116.49m: CL 割れ目が細かく分布し、φ10~30m/m主体に岩片化している。 割れ目ぞいの多くは幅1~3m/mで砂状~細密片状化する。
116.18~116.37mでは石英の晶出が多く、全体が珪質となる。
116.49~119.47: CM 挟雑物のない割れ目が多いが、一部で幅1~2m/mで砂状化部や粘土部をはさむ割れ目も分布する。 また、割れ目交差部の一部ではφ5~10m/m程度に細片状化する部分もある。
117.21m 70° 割れ目に幅2m/mで硬質な暗緑色鉱物脈(緑泥石)が断続的に分布する。その上盤側約10m/mは弱く風化し淡褐色化するが劣化は伴わない。
118.12~119.10m 30° 前後と70~80° 割れ目が交差し、その一部ではφ5~10m/m程度で片状化している。砂状化や粘土化は伴わない。 118.23~118.53m 20~30° の「ゆ着割れ目」が10~20m/m間隔で同方向に分布。一部では密着度が低く既に開口割れ目化している。

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 区分	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	記事
11.5	0.5		緑泥質 砂岩	+	+	+	+	+	+	+	115.63~115.81m ・密着した割れ目が、間隔6~10mmで分布する。 115.99~116.49m ・割れ目が少なく、岩片状を呈する。 116.49~118.47m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 ・割れ目沿いに、一部砂状化している。

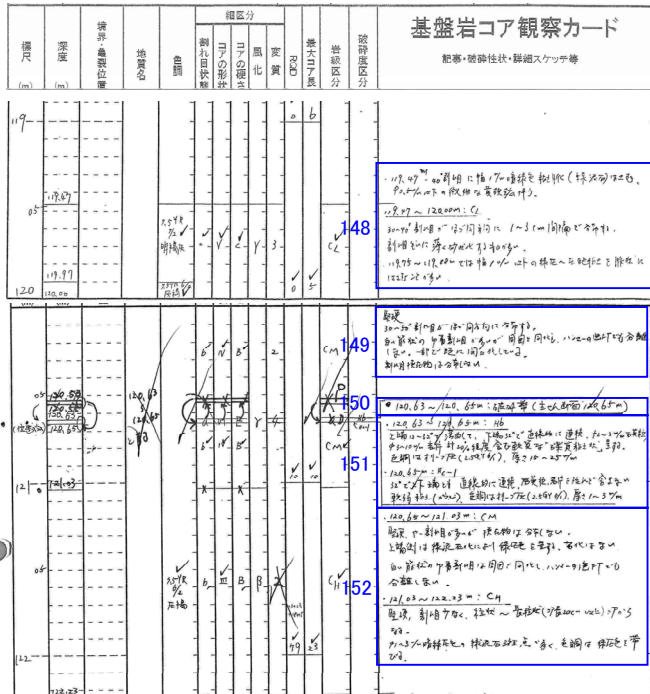
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
142	・色調、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
143	・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の発達程度については、“コアの形状”欄に基づき、岩片状と記載。 ・割れ目沿いで砂状から細片状を呈するが、いずれも連続性に乏しいことから削除。
144	・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
145	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質、岩片~短柱状と記載。 ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・砂状化の幅については、ばらつきがあるため削除。
146	・鉱物脈、変色については、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで片状化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないため削除。
147	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。

H27-B-2

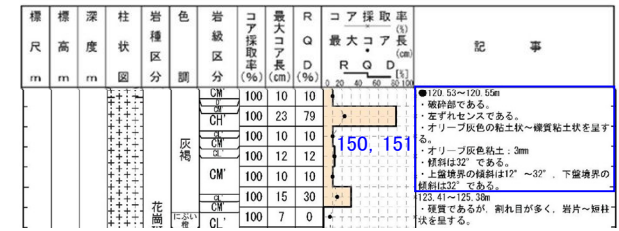
コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容	
119.47m	40° 割れ目に幅1m/m暗緑色粘土脈(緑泥石)はさむ、φ0.5m/m以下の微細な黄鉄鉱付着。 119.47~120.00m:CL 30~40° 割れ目がほぼ同方向に1~3cm間隔で分布する。割れ目ぞいに薄く砂状化するものが多い。 119.75~119.88mでは幅1m/m以下の緑灰~灰白色粘土を脈状にはさむことが多い。
148	堅硬 30~50° 割れ目がほぼ同方向に分布する。 白い筋状の仲着割れ目が多いが周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。一部で既に開口化している。 割れ目挟在物は分布しない。
149	●120.63~120.65m: 破砕帯(主せん断面120.65m)
150	120.63~120.65m:Hb 上端は12~32°で湾曲して、下端32°で直線的に連続。φ2~3m/m石英粒、φ3~10m/m岩片計20%程度含む軟質「礫質粘土状」呈する。 色調はオリブ灰(2.5GY 6/1)、厚さ15~25m/m
151	120.65m:HC-1 32°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない軟弱粘土(ガウジ)、色調はオリブ灰(2.5GY 5/1)、厚さ1~3m/m
152	120.65~121.03m:CM 堅硬。やゝ割れ目が多いが挟在物は分布しない。上端側は緑泥石化により緑灰色を呈する。劣化はない 白い筋状の仲着割れ目は周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。 121.03~122.23m:CH 堅硬、割れ目少なく、柱状~長柱状(コア長20cm以上)コアからなる。 φ1~3m/m暗緑灰色の緑泥石斑点が多く、色調は緑灰色を帯びる。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
148, 149	<ul style="list-style-type: none"> 119.47mに粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 鉱物の晶出、割れ目の傾斜・密着状態、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 一部割れ目沿いで砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 119.75~119.88mに粘土を挟在するが、周囲の岩盤の劣化が系統的でないことから削除。
150, 151	<ul style="list-style-type: none"> 深度120.63~120.65m→120.53~120.55m※2 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 粘土の累計幅については、最大値を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hb区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
152	<ul style="list-style-type: none"> 岩級およびその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 挟在物の有無、色調、割れ目の密着状態、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。